ISSN 0286-5424

京都府埋蔵文化財情報

第88号

平成14年度京都府埋蔵文化財の調査 ---------- 石井　清司 -- 1
共同研究　弥生時代水晶製玉作りの展開をめぐって ----- 河野　一隆・野島　永 -- 7
平成14年度発掘調査略報 ---------- 17
23. 竹野遺跡・宮遺跡
24. 大垣遺跡・一の宮遺跡・難波野条里制遺跡
25. 新堂池古墳群第2次
26. 里遺跡第5次
27. 平安京跡右京一条三坊九・十町(第10次)
28. 長岡京跡右京第753次・井ノ内遺跡・上里遺跡
29. 芝山遺跡
30. 内里八丁遺跡第19次
31. 魚田遺跡第6次・西村遺跡・門田遺跡
32. 薪遺跡第4次
33. 椋ノ木遺跡第6次
34. 片山古墳群
35. 内田山遺跡・内田山古墳群
府内遺跡紹介　95. 右京の旧石器時代遺跡 ---------- 32
長岡京跡調査だより・85 ---------- 34
財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧 ---------- 36
センターの動向 ---------- 37
受贈図書一覧 ---------- 39

2003年6月

財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター

平成14年度京都府埋蔵文化財の調査

石井　清司

平成14年度に京都府域において当調査研究センターが、試掘および発掘調査を実施した件数は37か所、48遺跡であり、地域別では、丹後地域５遺跡、中丹地域２遺跡、南丹地域７遺跡、乙訓地域３遺跡、山城地域17遺跡である。調査方法別では試掘調査13遺跡、発掘調査が24遺跡で、発掘調査のうち、調査面積が1,000m²以下のものは14遺跡である。

ここでは、京都北部から順次南部へと時期を追って、当調査研究センターの調査を中心に各遺跡の調査成果を紹介していく。

１．丹後地域

丹後地域では、丹後町のイリ遺跡・大成15・18号墳・竹野遺跡・宮遺跡・下向古墳、弥栄町の木橋北城跡(千原崎遺跡)、峰山町の赤坂今井墳丘墓、大宮町の有明古墳群、加悦町の日吉ヶ丘遺跡・明石大師山古墳群・入谷西古墳群、野田川町の山田黒田遺跡・慈観寺跡、宮津市の大垣・一の宮・難波野条里制遺跡・成相山旧境内などで調査が行われた。

竹野川河口部に広がる丹後町竹野遺跡では、弥生時代前期(６層)、弥生時代中期後半～古墳時代後期(４層)の包含層を確認するとともに、弥生前期には砂丘縁辺部に洲浜状の礫面が広がっている可能性が考えられた。竹野遺跡の南端部にあたる宮遺跡では、古墳時代初頭の灌漑用水路と思われる２条の溝を検出した。弥栄町木橋北城跡の下層で弥生後期後半の竪穴式住居跡を狭い丘陵平坦部で１基検出した。中期の方形墓である日吉ヶ丘遺跡では範囲確認の調査が行われた。赤坂今井墳丘墓では西側テラスの幅が９ｍであることが明らかになるとともに、新たに25基目の埋葬施設を確認した。

古墳時代の調査では、野田川町山田黒田遺跡で古墳時代前期の遺物を含む自然流路を検出した。竹野遺跡に隣接した大成古墳群のうち15号墳では６世紀末頃の須恵器を含む周溝を、推定直径約15m前後、高さ2.0m以上の円墳である大成18号墳では、墳丘上半部に石材を２段以上積上げた外護列石を確認した。なお、18号墳の周溝に重複するように中世の遺物を含む東西１間(3.5m)×南北２間(5.0m)の掘立柱建物跡を検出した。加悦町大師山古墳群の調査では、古墳時代前期の特異な土製模造品が出土した。

中世の時期の調査では、木橋城跡(城主吉岡伊豫守)の支城(砦)と推定されている木橋北城跡で、東西２間以上×南北１間以上の掘立柱建物跡を、慈観寺跡では石組の排水施設と石敷き遺構を検出した。天橋立の北側、阿蘇海に面した緩斜面に位置する大垣・一の宮遺跡では、地形の変化や河道・湿地帯などの検出から中世末期に雪舟が描いた『天橋立図』の嶋堂や高橋がかけられた河

平成14年度発掘調査一覧(当センター調査分のみ)

番号	遺跡名	種　別	所在地	担当者	調査期間	概　　要
1	イリ遺跡・大成(おおなる)古墳群	集落跡 古墳	丹後町	石崎善久	4～7月	古墳(横穴式石室)2基。 中世の掘立柱建物跡1棟。
2	竹野(たけの)遺跡・宮(みや)遺跡	集落跡	丹後町	田代　弘	10～12月	弥生前期の包含層。 弥生後期の溝2条。
3	木橋北城(きばしきた)跡	集落跡 城跡	弥栄町	石尾政信	9～11月	弥生後期の竪穴式住居跡1基。 中世の掘立柱建物跡1棟。
4	山田黒田(やまだくろだ)遺跡	集落跡	野田川町	村田和弘	8～9月	弥生後期の流路跡。
5	大垣(おおがき)遺跡・一の宮(いちみや)遺跡・難波野条里制(なんばのじょうりせい)遺跡	集落跡	宮津市	石崎善久	9～12月	弥生～中世の包含層。 中世の河道・湿地。
6	福知山城(ふくちやま)跡	城跡	福知山市	引原茂治	9～10月	江戸時代の掘立柱建物跡・礫敷き遺構。
7	観音寺(かんのんじ)遺跡	集落跡	福知山市	竹原一彦 黒坪一樹	5～12月	弥生～古墳時代の竪穴式住居跡。
8	新堂池(しんどういけ)古墳群第2次	古墳	園部町	竹原一彦 小池　寛	8～1月	古墳4基、内2基は横穴式石室墳、2基は木棺直葬墳。
9	野条(のじょう)遺跡第4次	集落跡	八木町	田代　弘	5～10月	弥生後期の竪穴式住居跡。
10	池上(いけがみ)遺跡第13次	集落跡	八木町	小池　寛 中川和哉 中村周平	7～11月	弥生時代の方形周溝墓。古墳時代の竪穴式住居跡。 奈良～平安時代の掘立柱建物跡・井戸。
11	池上(いけがみ)遺跡第15次	集落跡	八木町	中川和哉 中村周平	11～2月	弥生時代の方形周溝墓。 奈良時代の井戸。
12	里(さと)遺跡	集落跡	亀岡市	引原茂治 小池　寛 黒坪一樹	11～3月	古墳時代の竪穴式住居跡。 奈良時代の掘立柱建物跡。
13	太田(おおた)遺跡第15次調査	集落跡	亀岡市	小池　寛	9～11月	弥生後期の竪穴式住居跡・土壙墓。
14	大淵(おおぶち)遺跡第4次	集落跡	亀岡市	戸原和人 田代　弘 石尾政信 村田和弘	7～3月	弥生前期の竪穴式住居跡・溝。 古墳時代の竪穴式住居跡・溝。 飛鳥～奈良時代の溝。
15	高梨(たかなし)遺跡第2次	集落跡	京北町	石尾政信	5～6月	顕著な遺構・遺物なし。
16	平安京跡(へいあんきょう)右京一条三坊九・十町第10次	都城跡	京都市	村田和弘 石崎善久	10～3月	九町域の築地・内溝、鷹司小路両側溝、掘立柱建物跡1棟。 弥生後期の溝。
17	長岡京跡(ながおかきょう)右京第752次・神足(こうたり)遺跡	都城跡 集落跡	長岡京市	藤井　整	10～12月	弥生中期の方形周溝墓2基。 中世の溝。
18	長岡京跡(ながおかきょう)右京第753次・井ノ内(いのうち)遺跡・上(かみ)里(ざと)遺跡	都城跡 集落跡	長岡京市	増田孝彦	12～2月	古墳時代の竪穴式住居跡1棟。 中世の掘立柱建物跡・溝。

19	しもうえのみなみ 下植野南遺跡	集落跡 古墳	大山崎町	引原茂治 増田孝彦 藤井　整	5～7月	方墳1基。 古墳時代の掘立柱建物跡3棟。
20	きづがわかしょう 木津川河床遺跡第15次	集落跡	八幡市	増田孝彦	11月	中世の耕作溝。
21	うちさとはっちょう 内里八丁遺跡第18次	集落跡	八幡市	河野一隆	6～8月	弥生後期の水田跡。 飛鳥～平安時代の溝・土坑・掘立柱建物跡。
22	うちさとはっちょう 内里八丁遺跡第19次	集落跡	八幡市	引原茂治	12～3月	古墳時代の溝・土坑。島畠。
23	あらさか 荒坂横穴群第3次	横穴	八幡市	黒坪一樹 村田和弘	4～6月	横穴2基。 横穴状遺構4基。
24	おんなだに 女谷横穴群第4次	横穴	八幡市	岩松　保 中村周平	4～6月	横穴4基。
25	あらさか 荒坂遺跡	集落跡	八幡市	小池　寛 村田和弘	4～5月	土坑。
26	ごけどおり 御毛通遺跡	集落跡	八幡市	中川和哉	4～5月	顕著な遺構・遺物なし。
27	ひがしはら 東原遺跡	散布地	八幡市	中村周平	7～8月	顕著な遺構・遺物なし。
28	たきぎ 薪遺跡第3次	集落跡	京田辺市	竹井治雄	11～2月	縄文時代の土坑。 平安時代の土坑。
29	ふたまた 二又遺跡第2次	集落跡	京田辺市	岡崎研一 河野一隆	5～9月	奈良～平安時代の掘立柱建物跡・井戸。
30	みやまぎ 三山木遺跡第5次	集落跡	京田辺市	岡崎研一 河野一隆	5～7月	中世の溝。
31	うおた　に 魚田遺跡第6次・西 しむら　かどた 村遺跡・門田遺跡	集落跡	京田辺市	中村周平	12～2月	顕著な遺構・遺物なし。
32	しばやま 芝山遺跡	集落跡 古墳	城陽市	増田孝彦 岡崎研一 柴　暁彦	7～2月	古墳。 奈良～平安時代の掘立柱建物跡。
33	はたのまえ 畑ノ前第6次	集落跡	精華町	柴　暁彦	4～6月	古墳時代の竪穴式住居跡。 奈良時代の掘立柱建物跡
34	むくのき 椋ノ木遺跡第6次	集落跡	精華町	松井忠春 森島康雄 伊賀高弘	6～2月	弥生時代の溝。 中世の掘立柱建物跡。
35	かたやま 片山古墳群	古墳	木津町	筒井崇史	10～1月	顕著な遺構・遺物なし。
36	あかがひら 赤ヶ平遺跡第3次	集落跡	木津町	筒井崇史	6～10月	弥生時代の土坑。
37	うちだやま 内田山遺跡第3次・ うちだやま 内田山古墳群	古墳 集落跡	木津町	筒井崇史	1～2月	弥生時代の土坑。 古墳の周溝。

道などに符合するような考古学的成果が得られた。大垣遺跡の背後に聳える成相山では旧境内の範囲を確定するための調査が行われた。

2．中丹地域

中丹地域では、福知山市の観音寺遺跡・向野古墳群・水内東1号墳・福知山城跡、綾部市の久

田山古墳群などの調査が行われた。

弥生時代中期から中世にかけての集落遺跡である福知山市観音寺遺跡では、縄文時代の方形土坑、弥生時代中期・後期・後期末の各時期の竪穴式住居跡を検出した。また、古墳時代末期にも２基の竪穴式住居跡、平安～鎌倉時代の溝・柱穴・土坑などを検出した。出土遺物では、動物を線刻した土製品が出土した。

古墳の調査では、総数30基からなる向野古墳群のうち、５世紀後半と思われる28号墳で漆塗りの樹皮(靱？)が鉄鏃とともに棺外の長側辺から出土した。直径10mを測る水内東１号墳では、墳頂部で、割竹形木棺と組合形木棺が25cmの間隔でほぼ平行して納められていることが明らかとなった。久田山古墳群のうちＫ支群で４基の古墳の調査が行われた。

福知山城跡では、本丸の石垣部分の調査で墓石や割った五輪塔を数多く使用した築造当初の石垣を検出した。また、松平氏の時期の絵図に見られる「鷹部屋」と記された位置に相当する部分の調査で、幕末以前の４層の整地層を確認するとともに整地層３の面で礎石と思われる石材と礫敷き遺構、整地層４の面で掘形内に17世紀初頭の遺物を含む掘立柱建物跡を検出した。出土遺物では元和八(1622)年と推定できる瓦質塼が出土した。

３．南丹地域

南丹地域では、園部町の新堂池古墳群、八木町の野条遺跡・池上遺跡(第13・15次)、亀岡市の里遺跡・太田遺跡(第15次)・大淵遺跡(第４次)・千歳車塚古墳・丹波国分寺跡・河原尻遺跡、京北町の高梨遺跡などで調査が行われた。

大堰川の東岸、川東地区の大淵遺跡では、弥生時代前期の半円形の竪穴式住居跡１基と溝１条を検出した。弥生前・中期初頭の環濠集落として著名な太田遺跡に相当する集落遺跡と思われる。弥生時代中期の方形周溝墓群として知られている池上遺跡では、新たに方形周溝墓を確認するとともに、後期の遺構も一部検出しており、集落と墓域の展開を考える上での資料が提示された。弥生時代後期の遺構では、野条遺跡・太田遺跡で焼失家屋と思われる竪穴式住居跡を検出した。また太田遺跡では住居跡に近接してほぼ同時期の墓壙を検出している。

里遺跡では、古墳時代後期の竪穴式住居跡を40基検出し、今後の調査によってはさらに住居跡が検出される可能性が高い。里遺跡の背後丘陵には33基の古墳群からなる美濃谷古墳群があり、この古墳群との関連が指摘でき、古墳時代後期の代表的な集落遺跡であることが明らかとなった。また、里遺跡は奈良時代の遺構の検出状況から、大規模な建物跡が存在する可能性が高くなった。低位丘陵上に立地する古墳時代中期から後期にかけて形成された22基で構成される新堂池古墳群では、４基の古墳の調査が行われ、古式の須恵器を伴う時期(中期後葉、陶邑編年ＴＫ47型式)には木棺直葬墳であったものが、同ＴＫ10型式の時期で古式の横穴式石室墳へ変化していくことが明らかとなった。また、横穴式石室の導入期には「Ｌ」字形にも似た特徴的な両袖式横穴式石室(１号墳)を築いていることが明らかとなった。

丹波国分寺跡では、講堂の基壇部分を、河原尻遺跡では掘立柱建物跡の一部を検出している。

4．乙訓地域

乙訓地域では長岡京域の調査で、宮域内で11件、右京域で33件、左京域で14件の調査が行われた。その内、条坊関連遺構としては右京第746次調査で一条条間南小路の両側溝を、左京第473次調査で東二坊大路と二条条間大路の交差点を検出し、二条条間大路北側溝が東二坊大路の路面を横断していることが明らかとなった。

長岡京造営以前のものとしては、100基以上の方形周溝墓を検出している神足遺跡で２基の木棺直葬墓と墓坑１基をもつ方形周溝墓を検出(右京第752次調査)したほか、居住区と墓域を区画する溝を検出(右京第757次調査)した。

中世遺構として注目されるものとしては、神足遺跡・井ノ内遺跡がある。神足遺跡(右京第752次調査)では、トレンチ中央やや北寄りで途切れる、検出長約15m、上面幅3.0m、深さ1.2mで、瓦器椀・土師皿を含む13世紀前葉の堀跡を検出した。同じく井ノ内遺跡(右京第753次調査)でも12世紀後半から13世紀中頃の、土師器皿・羽釜・瓦器椀を含む検出長約13m、上面幅約2.3m、深さ0.7mの堀跡を検出しており、調査地の東側で昭和53・54年度に調査された成果からも、この堀は南北約23m以上、東西19m以上を測る方形区画とされたものであることが明らかとなった。両遺跡ともに堀内から鋳造炉壁・鞴羽口(神足遺跡)・鍛冶滓・鉄釘・飾り金具(井の内遺跡)など、周辺での鍛冶工房を想定できる資料が出土している。

京域外の調査では、下植野南遺跡で一辺13mを測る４世紀後半の方墳(土辺(つつべ)古墳と命名)から円筒埴輪のほか、方杖と幕板をもつ祭殿を模した家形埴輪が１個体まとまって出土した。久保川遺跡では８世紀中頃から９世紀と思われる庭園の一部を構成する池と礫敷き遺構があり、遺跡の周辺で別業があったものと思われる。また向日市の宝菩提院廃寺では、東西に長い掘立柱建物跡の東半部で、排水溝を伴う石敷きと、竈を据えたと思われる周辺に川原石が敷かれた平安時代の湯屋跡を検出した。

5．山城地域

南山城地域では、八幡市の内里八丁遺跡・木津川河床遺跡・荒坂横穴群・荒坂遺跡・御毛通遺跡・女谷横穴群・ヒル塚古墳・美濃山廃寺・東原遺跡、京田辺市の二又遺跡・三山木遺跡・薪遺跡・魚田遺跡、精華町の椋ノ木遺跡・畑ノ前遺跡・畑ノ前東遺跡、木津町の片山古墳群・内田山古墳群・内田山遺跡・赤ヶ平遺跡・上津遺跡、加茂町の恭仁宮跡、山城町の上狛西遺跡、井手町の石橋瓦窯、城陽市の芝山遺跡・芭蕉塚古墳、宇治田原町の山瀧寺跡、宇治市の宇治市街遺跡などで調査が行われた。

これまで弥生時代の遺構が検出されていなかった椋ノ木遺跡では、弥生時代中期の溝をさらに後期後半に再掘削した、集落を限るためと思われる溝(幅８m、深さ1.2m)を検出しており、周辺に集落が存在するものと推定できる。奈良時代の稲蜂間宿祢仲村女に関連した遺跡と推定されている畑ノ前遺跡でもこれまで検出例のなかった弥生時代の住居跡を検出した。また木津川の自然堤防上に立地する上狛西遺跡では焼失家屋と思われる弥生後期の竪穴式住居跡を検出した。

古墳時代には、内里八丁遺跡では古墳時代前半の集落を限る溝を、芝山遺跡のＡ地点では古墳時代後期の竪穴式住居跡３基を、Ｆ地点では周溝内から、靫・盾・馬の形象埴輪を含む埴輪が出土した一辺約18mの方形墳を検出した。同じく古墳の調査では、ヒル塚古墳の南西のコーナー部で埴輪列と葺石の一部を確認した。横穴では荒坂横穴群（Ａ・Ｂ支群）で２基の横穴を、女谷横穴群で４基の横穴を調査し、荒坂・女谷横穴群は、70基以上の横穴で構成されていることが明らかとなった。出土遺物では、横穴内から６世紀末～７世紀の須恵器・土師器とともに、鉄地金銅張の胡籙が出土している。

奈良時代以降の集落関連遺構では、椋ノ木遺跡（第６次）で、鎌倉～室町時代にかけての坪境溝、鎌倉時代の掘立柱建物跡と直径約2.9mの石組み井戸、平安時代の南北２間×東西６間以上の掘立柱建物跡などを検出した。二又遺跡では掘立柱建物跡２棟のほか、掘立柱建物跡と重複する位置で長軸2.0mを測る奈良時代の井戸を、畑ノ前遺跡では新たに５棟の掘立柱建物跡を検出しており、各遺跡で掘立柱建物跡の検出例が増加している。

寺跡関連では、美濃山廃寺の寺域の北西角で外郭を区画する溝と倉庫棟と思われる掘立柱建物跡を検出した。また石橋瓦窯跡では大安寺の創建瓦を焼いた窯跡を新たに検出した。窯は２基検出され、２基の窯の背後には排水用の溝が掘られていること、窯構造は興福寺創建瓦窯である梅谷瓦窯と同様、登り窯から平窯に変化する構造の窯であることが明らかとなった。石橋瓦窯跡は文献に見られる「棚倉瓦屋」との関連が考えられる遺跡である。恭仁京跡では内裏東地区の東側築地塀の基礎が、幅3.6m、深さ20cm以上掘り込んだ後に盛土を行っていることが明らかとなった。

平安京跡では、右京一条三坊九・十町の調査で九町域の築地跡と内溝、鷹司小路の両側溝を検出した。鷹司小路については、『延喜式』「京程」条では溝の心々距離は二十六尺（約7.8m）と記載されているが、今回の調査では溝の心々距離は5.0mであり、狭くなっていることが明らかとなった。右京四条四坊十六町では古墳時代の竪穴式住居跡を、左京二坊十四町では平安時代後期の井戸や柱穴、中世建物群などを検出している。京都大学構内遺跡では幅４mにわたって室町時代の白川道の路面遺構などを検出している。太秦地域に所在する上ノ段町遺跡では平安時代前期末～中期の須恵器・緑釉陶器を含む、墓壙の長辺3.0m、短辺1.6mで墓壙底に全面木炭を敷き詰めた木棺墓が検出された。

（いしい・せいじ＝調査第２課調査第３係長）

共　同　研　究

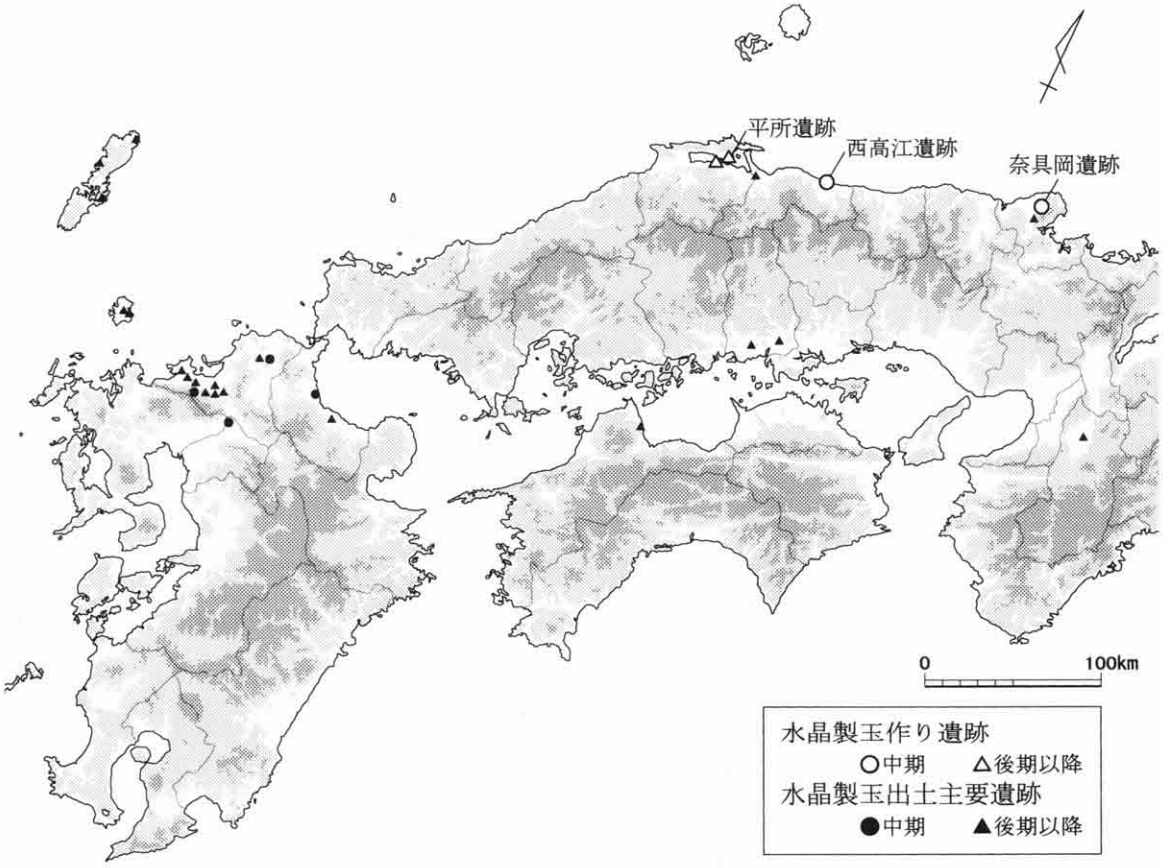
弥生時代水晶製玉作りの展開をめぐって

河野　一隆・野島　　永

1．はじめに

平成７年から翌８年にかけて、当調査研究センターが実施した京都府竹野郡弥栄町の奈具岡遺跡における発掘調査では、大規模で専業的な水晶製玉作り遺跡の実態が判明した。(注1) 弥生時代水晶製玉作りは、その製作跡の発見のみならず製品自体の出土例も少ないことから、緑色凝灰岩や碧玉製玉類生産に付属する特殊な位置を占めたにすぎないものとみられており、その製作技法や生産組織、製品の移動についての詳細な検討はできていなかった。

河野と野島は、平成10年５月21・22日に鳥取県大栄町立歴史文化学習館で西高江遺跡、島根県立八雲立つ風土記の丘資料館・島根県玉湯町立出雲玉作資料館で、平所遺跡の資料を検討する機会を得た。(注2) 水晶製玉類未成品(加工失敗品･廃棄品を含む)や加工の際に生じる剥片などの一部を実測した。(注3) これらについての見学の所見を示し、水晶製玉作りにおける鉄製工具の使用、とくに



第１図　水晶製玉作り遺跡と製品分布(西日本)

穿孔具について現在の理解を述べておきたい。

2．山陰地方の弥生時代水晶製玉作りについて

鳥取県西高江遺跡の水晶製玉作り

西高江遺跡は、鳥取県東伯郡大栄町大字由良宿字西高江に所在する。県営畑地帯総合土地改良事業に伴う圃場整備に先駆けて行われた分布調査によって確認され、東高江遺跡とともに弥生時代の集落として調査された。玉作りに関連する水晶結晶体や板状剥片、および調整剥離を施す四角柱体などが出土しているが、穿孔工程を経た未成品や完成品はみられなかった(第２図)。鉈状の鉄片、石鋸、穿孔に利用されたと思われる土製紡錘車などが遺存しており、中期末葉から後期初頭に比定される[注4]。

西高江遺跡の水晶製玉作りは、実見したところ、おもに算盤玉や小玉を作り出すいわゆる奈具岡技法[注5]や、大型の算盤玉を作る平所技法[注6]と、丸玉などを作るいわゆる個体作りの都合３種類の製作工程があることが推定できるようである。このうち、奈具岡技法では大型水晶結晶体の結晶面を打割して除去し、方柱状の素材石核を作る。奈具岡遺跡では、結晶化しない透明度の高い良質の石英塊を利用した石核もかなり認められたが、西高江遺跡では剥片資料がないために、大型の石英塊が素材として搬入されていたかどうかは不明である。素材石核の大きさが奈具岡遺跡のものよりも比較的に小さいことからしても、それほどは利用されなかったのではないかと思われる。奈具岡遺跡で作り出された素材石核は、全長ほぼ３～５cm四方の立方体である。しかし、この段階の素材石核は、西高江遺跡の資料中には認められない。西高江遺跡で最初にみられる素材石核は先ほどの立方体をほぼ二分割したものである(第２図10)。次いで、この長方形の石核の小口面を連続的に打撃することで剥片を剥がしていく(11～13)。これをさらに側面から打割することによって、長さ1.5cmから２cmほどの角柱体に分割される。この角柱体を側面から調整剥離することによって、角柱体(14)を作り出し、調整剥離を繰り返した後、一部敲打整形[注7](15・16)を行う加工作業が復原できる。その後、この四角柱体を分割し、小玉などの製品各個体を作り出し、穿孔を行っていくものと予想されるが、四角柱体段階での敲打整形は、円柱状に近い多角柱体に加工する奈具岡遺跡のそれではなく、側面の各面を平坦に仕上げるために部分的に行われているものである。高橋氏も指摘[注8]するように、この四角柱体から数個の方形小玉のような特殊な玉類の生産を行った公算が高いといえる。

平所技法による個体としては稜頂部が除去された段階の六角柱結晶体がある(1～4)。結晶面を除去した六角柱体を縦に半截して(5・6・8)、それぞれから各１個の大型の算盤玉などを作り出すものと考えられる。

個体作りのものは、１点のみの破片である(9)。 これは、六角柱体から結晶面をほとんど除去せずに半截し、調整剥離を開始しているものである。大型水晶結晶体を素材としており、勾玉など大型玉類を作り出すためのものであろう。

西高江遺跡における玉作り作業を復原するとすれば、特殊な方形小玉や各種算盤玉あるいは大

型玉類の生産であったといえる。搬入された当初の素材原石や穿孔段階のものがみられないことから、中間段階の数工程を示しているといってよいだろう。西高江遺跡の水晶製玉作りの遺存資料数は奈具岡遺跡のそれに比べれば格段に少ない。また、搬入された水晶結晶体などの素材石核は小さいが、舶載鋳造鉄斧破片など、鋳造起源の鉄片や石針素材らしき硅化木片も出土している。目的製品や玉作り作業工程やその期間の差だけでなく、作業の専業性や作業従事者の構成など、

第２図　島根県西高江遺跡出土水晶製玉類未製品実測図（2/3）

１・３・６・７・９・11・13～16．竪穴式住居跡１号　　２・５・12．竪穴式住居跡７号

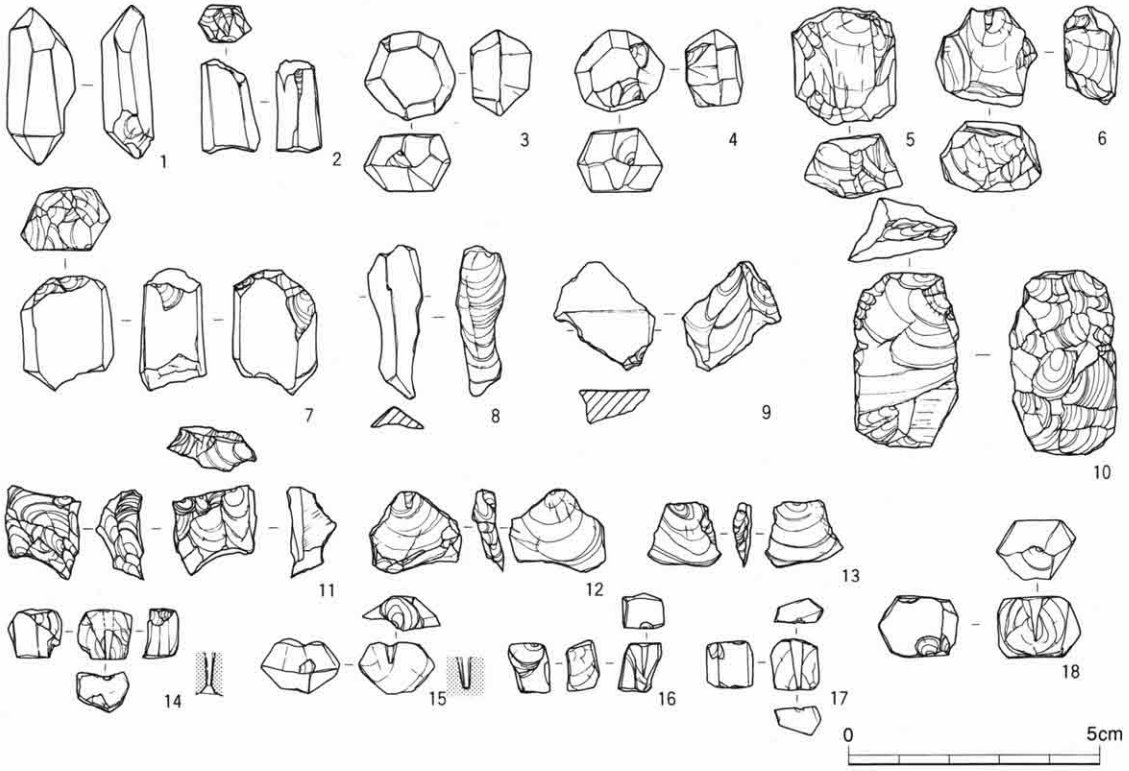
８．竪穴式住居跡８号　　４．不明

奈具岡遺跡よりも小規模と考えられるが、出土した多種多様な入手素材の構成についての類似点も多いといえる。

島根県平所遺跡における水晶製玉作り

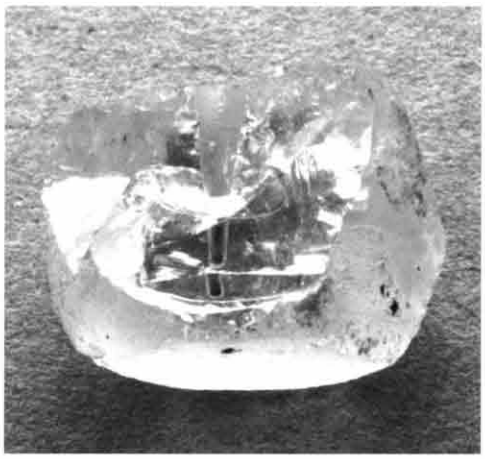
平所遺跡は、島根県松江市矢田町字平所に所在する。一般国道９号線バイパス建設に先駆けて試掘・発掘調査が行われた結果、小規模な調査面積ではあったが、竪穴式住居跡４基と溝などが検出された。そのうちの１基の竪穴式住居跡(工房跡)とその周囲をめぐる周溝から水晶原石や玉作りに関連する遺物が出土した(注9)(第３図)。八雲立つ風土記の丘資料館・出雲玉作資料館に所蔵された平所遺跡の玉作り関連資料には、水晶製品および未成品・剥片類・鉄製工具類・緑色凝灰岩製玉作関連資料などがある。先述したように、大型の算盤玉などを中心とした水晶製品の製作が行われており、長らく水晶製玉作りの典型的な製作技法として知られてきた。稜頂部・基部を除去した六角柱体を半截し、結晶面を剥ぎ取る。半截時の剥離面を打面として打点を変えながら剥離整形を繰り返し、短い円柱状の形態(第３図5・6)に近づけていくのである。剥離行為に規則性は認められず、個々の規模も若干の差違がある。それを、敲打整形と研磨整形(3・4)によって寸詰まりの切子玉やあるいは算盤玉の形状へと加工し、穿孔へと移る(15)。穿孔は片面穿孔で、穿孔痕跡は狭長な逆円錐形、鋭いロート状である。

また、数点ではあるが、いわゆる個体作りのものがある。小型の水晶結晶体の稜頂部・基部を除去するが、結晶面を残したまま穿孔し、その後に剥離整形・研磨を施すもの(14～16・18)などもある。14～18は穿孔途中で廃棄された個体である。14は片面穿孔によって貫通している個体であるが、穿孔の際に破砕してしまったようである。下面側には小さな割れ円錐が認められる。穿



第３図　島根県平所遺跡工房跡ほか出土水晶製玉類未製品・剥片実測図(2/3)

孔内壁は白濁した光沢を持っているが、穿孔方向にわずかな擦痕が認められる。15は穿孔途中に破砕しているが、これも白濁した内壁と穿孔方向の擦痕のようなものが観察できる。すべてに針状の石錐(以下石針とする)で穿孔したような錐の回転に伴う擦痕は認められず、針状の鉄錐(以下鉄針とする)によって穿孔されていたものとみることができる。18も水晶製棗玉が鉄針によって穿孔されたことを明瞭に看取することができる例である(第4図写真)。同様に鉄針によって片面穿孔を行う途中で加圧方向を誤って、一部が大きく破壊されたために廃棄されたものと推測することができる。玉のほぼ全面が荒い研磨によって仕上げられつつあり、穿孔が仕上げの直前に行われていることがわかる。孔の断面形態は狭長な逆円錐形であり、穿孔開始部から先端に向けて急激に大きさを減じていることがよくわかる。先端には、黄褐色の物質が詰まっているが、これが穿孔時に残された酸化鉄なのか、埋積中の土壌なのかは明確ではない。穿孔部内壁はつや消し状に白濁したものになっており、玉外面の仕上げと類似している。これは、穿孔行為が玉外面の仕上げ作業と類似した往復連続運動に由来したことを意味している。この平所遺跡の事例は非常に重要である。つまり、鉄針穿孔の場合は鉄針の鋭い頭部を軸点として基部が回転する運動によって穿孔が進んでいくことを示しているからである。すなわち、鉄針穿孔とは軸心基部のブレの大きな穿孔運動によって孔壁を破壊していくものであることがわかる。(注10)



第4図　平所遺跡水晶製棗玉穿孔状況

平所遺跡における水晶製玉類生産は、製品個体の遺存数がそれほど多くなく、生産製品の確定は難しいが、大型の寸詰まりの切子玉あるいは算盤玉と、一部の棗玉や丸玉、臼玉状の小型品などが推定される。専ら当初から剥離整形と敲打整形によって個体別加工を行い、その製品も多種類にわたる特色がある。また、搬入された素材となる水晶結晶体と穿孔前後の製品の比率からすれば、成功率の高い攻玉技法に限定されたものであったということができるであろう。奈具岡遺跡では、工房ごとの分業が行き届いているように見えるが、小玉や小型算盤玉の規格的な生産が可能である代わりに、大量の失敗品も生成されざるを得なかった。それは、板状剥片を介在させた緑色凝灰岩製管玉製作技法を応用した技術基盤を採用した点に起因しているといってよい。奈具岡遺跡と平所遺跡との間には、別系譜とでもいってよいほどの製作工程上の不整合あるいは飛躍が認められるといえよう。

3．玉作りにおける鉄製工具使用をめぐって

日本海側に展開する弥生時代遺跡において中期後半以後、玉作り関連遺物と不定形な鉄片などとともに鉄製品が共伴する事例があることから、筆者等は当該地域の鉄製工具の導入にあたっては、玉作りが先導的な役割を果たしてきたことを推定した。(注11) とくに水晶製玉作りについては、奈

具岡遺跡はもちろん、先に調査された鳥取県大栄町西高江遺跡においても奈具岡遺跡などと同様な小型の鏨状の鉄器が共伴している。(注12) なかでも、玉作りで最も注意を要する部分が穿孔工程であることから、玉作り工具の鉄器化とは、鉄針穿孔具の導入と同義に捉えられるようになった感がある。しかし、石針(石錐)穿孔か鉄針穿孔かは、完成品・製作途上工程品・穿孔具と判断されるものとの共伴による検証が必要である。だが、実際は、玉作り関連遺物は微小なものが多く、その対応関係はなかなか明らかとはならなかった。

奈具岡遺跡の発掘調査では、当初、多量の鉄針状工具は穿孔用の玉作り工具の可能性が高いものと考えられたが、珪化木製石針が共伴することや、水晶製品の穿孔痕跡から石針穿孔が確実と考えざるを得なかった。碧玉・緑色凝灰岩など他の材質の玉作りには鉄製工具と思われる微細な鉄片類がみられなかったことについても、その説明が困難であるといえる。それでは、針状あるいは棒状の鉄製品の用途は何か。結局、筆者等は、奈具岡遺跡は玉作り専業集落であり、針状あるいは棒状の鉄製品も玉作りの工具と見なすべきであり、間接打法に伴う鏨か、石針穿孔のブレを留めるための下孔(補助的)穿孔のために用いられた可能性が高いと判断した。(注13)

この見解に対しては、異論が提出された。まず、鉄針穿孔のための下孔(補助的穿孔)は、玉の小口面を引っ掻くようにしたキズ状のものであり、奈具岡遺跡水晶製玉類ではそれが検出されていないこと。また、針状および棒状鉄製品については玉作り集落以外の弥生時代遺跡からも出土していることから、必ずしも玉作り工具に限定することはできない、(注14) とする見解である。

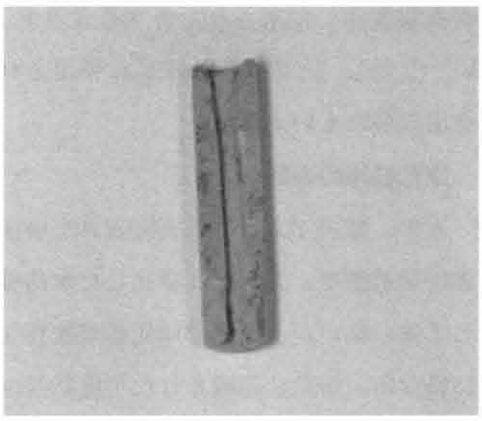
また、筆者等が奈具岡遺跡において針状・棒状鉄製品のほかに、楔あるいは鏨状の玉作り工具とした鉄製品が、実際に玉作りに利用されたかどうかについても、今後資料の蓄積が必要であり、早急には結論が出せない。このような鉄製工具とみられた鉄製品は、素材石核の打割や調整剥離などの加工に供されたものとみているが、玉材の加工痕跡からは単純に工具を限定できない状況にある。加工痕跡を実験によって検証しようにも、出土した微細な鉄製品のほとんどが銹化しており、その鉄の性質や硬度を知ることができない。これらの鉄製品の一部には、先端が折れ曲がっているものもあり、かなり炭素量の低い鋼素材も含まれていることがわかる。市販の鉄製品、たとえば釘などによる剥離痕跡の比較実験が単なる参考にしかならないことを指摘しておきたい。

石川県塚崎遺跡の管玉穿孔事例

塚崎遺跡は、石川県金沢市塚崎町字イイデラに所在する。加賀と越中境に聳立する医王山の西麓、森本川の中流左岸の舌状小丘陵上に位置する。その西側の小丘陵に位置する七つ塚墳墓群とともに北陸自動車道建設に伴う事前調査によって確認された。竪穴式住居跡25基、掘立柱竪穴遺構3基、土坑80基などが検出された。13基の竪穴式住居跡に緑色凝灰岩などの石核・調整剥離を施す四角柱体などのほか、穿孔工程の未成品や穿孔後の未研磨品などとともに完成品も多く遺存し、玉作りに従事していた集落であることが明らかとなった。(注15) この遺跡は、施溝分割を用いない、いわゆる塚崎技法の名祖遺跡として知られており、共伴する多量の鉄製の棒状工具も漠然と玉作り工具であるとの推測がなされてきた。擦切りを行う分割痕跡は、21号竪穴遺構に遺存した緑色凝灰岩の直方体状の石核1例にしか認められないことから、原石を打割によって直方体に成形し

た後、専ら剝離整形と研磨整形によって多角柱体に加工した後に穿孔するのものである。

この鉄針状の錐による穿孔方法が推測された塚崎遺跡出土の緑色凝灰岩製管玉の事例を紹介しておきたい(第5図写真)。この個体は穿孔方法を明瞭に推測させるものであった。穿孔完了後、側面研磨による光沢出しの際の事故によって破砕し、廃棄されたと考えられるものである。穿孔当初の孔の断面形状は、円錐状に開けられているが、中央部分はほぼまっすぐに開けられており、穿孔終了部分が下面の割れ円錐で抜けている。この穿孔方法は、先にみた平所遺跡の事例とは明らかに異なり、二段階穿孔の可能性を示している。すなわち、穿孔開始後、しばらくは平所遺跡例と同様に鉄針の先端を軸点として孔壁を破壊していくのであるが、下孔がほぼ完了すると、針の軸心のブレの少ない穿孔方法、つまり切削穿孔に切り替えて貫孔しているといえる。

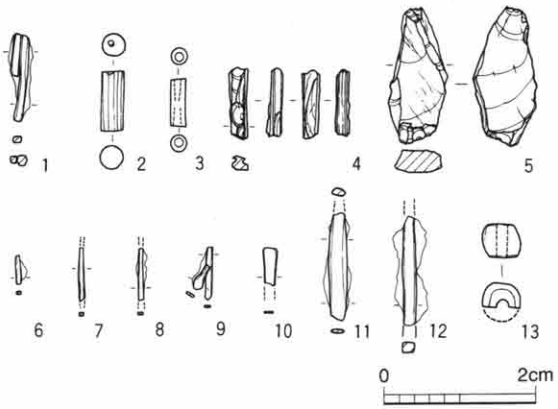


第5図　塚崎遺跡緑色凝灰岩製管玉穿孔状況

この塚崎遺跡の事例は、今まで状況証拠として推測するに留まっていた二段階穿孔を実証したものと評価できる。だがしかし、当然ながらこれをもってただちに奈具岡遺跡においても、穿孔当初の鉄針と貫孔の石針といった二段階穿孔を実証できるわけではない。鉄針の導入当初、それによって石針との穿孔機能の分化が引き起こされたかどうかはひとまずおくとして、玉作りの穿孔工程にあたっては破壊穿孔(鉄針穿孔)と切削穿孔(石針穿孔)が使い分けられていたことを示しているといえるのではないだろうか。元来、破壊穿孔と切削穿孔とは穿孔原理を異にするものであるから、同一工具ではありえないということを強調しておきたい。

弥生時代中期の鉄針状鉄製品の類例

近年、京都府船井郡八木町の池上遺跡では弥生時代中期後半の竪穴式住居跡ＳＨ140から鉄針状鉄製品(第6図1)が出土している[注16]。このほか、硬質緑色凝灰岩の管玉(3)や玉錐素材かと考えられる玉髄剝片(5)などが出土している。ＳＨ140を破壊して営まれた古墳時代の竪穴式住居跡ＳＨ02には緑色凝灰岩の管玉(2)や石針未成品(4)などが含まれており、これらはＳＨ140に属する可能性が高い。また、福岡県築上郡築城町安武・深田遺跡では、中期末葉の竪穴式住居跡ＳＨ50の鍛冶遺構に伴って直径1㎜前後の小さな鉄針状の鉄製品が出土している[注17](6～12)。ここでは九州では珍しい半截された水晶製小玉(13)が出土している。



第6図　弥生時代中期の鉄針状鉄製品と関連遺物(1/1)
1～5．京都府八木町池上遺跡
6～13．福岡県安武・深田遺跡

いずれも弥生時代中期後半の資料で、玉作り関連遺物と共伴するものとみることもできる。このような類例は、当時鉄針状の鉄製品

が衣服製作に使用されたとするよりも玉作りのために利用された可能性を否定するものではない。しかし、どのような工程に使用されたのか限定する状況にないといわざるを得ず、推測の域を出ないともいえる。

穿孔技術の系譜

近年、韓国で大々的に実施された南江ダム造成に先立つ発掘調査によると、慶尚南道晋州市の大坪里遺跡で、天河石に穿孔した水晶製石針(玉錐)らしきものが出土しているという。(注18) まだ実見してはいないが、写真では先端が鋭利な錐状もので、日本列島で出土する玉髄製石針とは明らかに異なる。また、完成された半玦状勾玉や獣形勾玉の穿孔径は、日本列島の管玉のそれよりも明らかに大きい。日本列島の場合、穿孔が穿孔軸に対してほぼ平行に通るのに対して、大坪里の事例は円錐形に近い穿孔形状である。これが水晶製穿孔具であるとすれば、その製作技法が日本列島の水晶製玉類との関連が注目されるが、現状では穿孔方法についての関係は希薄であると推測せざるを得ない。それでは、日本列島の石針穿孔のような切削穿孔に近い穿孔メカニズムを採用する東アジアの石製品は何か。ここで想起されるのは、中国の玉生産関連遺物でみられる玉芯である。それらのなかには側面に線状痕を留めており、あきらかに切削穿孔である。これは、管鑽法と呼ばれている。(注19) 弥生時代から体系的に行われる日本列島の管玉生産も、管鑽法の系譜で捉えられるものであり、穿孔方法の伝播についても資料を蓄積していく必要があろう。

なお、穿孔方法と関連して重視せねばならないのは、錐(針)を装着したと推定される舞錐の構造との関係である。奈具岡遺跡の調査では、紡錘車など、確実に舞錐に使われたと思われる遺物を出土品からは同定できなかったが、二段階穿孔と舞錐の使用工程についても検証すべき課題は多い。玉材穿孔をめぐる問題は、緒についたばかりといってよい。

(かわの・かずたか＝九州国立博物館(仮称)設立準備室研究員)
(のじま・ひさし＝当センター調査第２課調査第３係調査員)

注１　河野一隆・野島永「丹後国営農地開発事業(東部・西部地区)関係遺跡　平成８年度発掘調査概要(2)奈具岡遺跡(第７・８次)」(『京都府遺跡調査概報』第76冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)　1997　30～82頁

注２　大栄町教育委員会では、永田洋子氏・馬淵義則氏、出雲玉作資料館では勝部衛氏、八雲立つ風土記の丘資料館では平野芳英氏に大変お世話になった。記して感謝したい。また、見学させていただいた時点における筆者等の理解については以下の文献で提示した。
野島永・河野一隆「玉と鉄－弥生時代玉作り技術と交易－」(『古代文化』第53巻第４号　古代學協會)　2001　37～51頁

注３　第２・３図については、時間的制約からすべての剥離痕跡の切りあいの先後関係を認識できたわけではない。また筆者には剥離方向の不明な部位もあり、作図の方法も含めて改変の余地があることをご了承いただきたい。なお、第２図１～14・第３図は河野原図、第２図15・16は野島原図である。

注４　馬淵義則・清水真一『東高江・西高江遺跡発掘報告　鳥取県営畑地帯総合土地改良事業に伴う緊急発掘調査報告』13(『大栄町文化財調査報告書』第24集　大栄町教育委員会)　1981

注５　前掲注１文献　76頁、河野一隆「玉作と鉄器文化－京都府奈具岡遺跡の遺構・遺物の検討から－」

(『東日本における鉄器文化の受容と展開』第4回鉄器文化研究集会発表要旨集　鉄器文化研究会) 1997　171頁

注6　前掲注2文献　39頁

注7　筆者等が前掲注1・5文献のなかで、水晶玉類製作工程において四角柱体から多角柱体への加工を「研磨」工程としていたが、高橋進一氏によって微細な「敲打」によるものと判断され、敲打整形工程とされた(高橋進一「水晶製玉類の製作について－敲打整形技法を中心として－」(『環瀬戸内海の考古学－平井勝氏追悼論文集－』下巻　古代吉備研究会)　2002　357頁)。奈具岡遺跡出土の多角柱体を仔細にみれば、細かい貝殻状剥離が認められる。このような剥離痕跡は、研磨のように作業面に対して平行に近い力が加わったとするよりも、むしろ作業面に対して垂直に近い打撃や押圧が加わったものとする方が理解しやすい。つまり、この加工工程を「研磨」とするよりも非常に微細な「敲打整形」と訂正しておきたい。ただし、奈具岡遺跡出土例の場合、この工程によって四角柱体未成品の多くが円柱状ではなく、多角柱状になる。微細な敲打とともに平坦面と直線的稜線が作り出される特殊な加工技術であったと考えられる。この工程を経た後、穿孔後に玉の外表面の透明度を上げるために行う作業を研磨工程として分離しておきたい。指摘いただいた高橋氏に感謝したい。

注8　前掲注7文献　358頁

注9　松本岩雄・三宅博士『国道9号線バイパス建設予定地内　埋蔵文化財発掘調査報告書』Ⅱ　島根県教育委員会　1977

注10　冨山正明氏によって福井県三国町加登下屋敷遺跡(冨山正明編『下屋敷遺跡・堀江十楽遺跡　県営竹田川右岸地区土地改良事業に伴う調査』(『福井県埋蔵文化財調査報告』第14集　福井県教育庁埋蔵文化財センター)　1988)と、福井県福井市林・藤島遺跡(冨山正明「福井県林・藤島遺跡出土の鉄製品－弥生時代後期の玉作り工具を中心に－」(『東日本における鉄器文化の受容と展開』第4回鉄器文化研究集会発表要旨集　鉄器文化研究会)　1997　38～41頁)の玉作り関連遺物の報告がなされた。冨山氏によって、打製玉錐から磨製玉錐へ変遷することや、石針穿孔においては孔内壁に穿孔方向に直交する水平方向の線状痕が残ること、鉄針穿孔ではその形状が円錐状断面になることなどが明らかとなった。なお、第4図写真資料は、島根県立八雲立つ風土記の丘資料館収蔵のものである。

注11　前掲注2文献　48頁、注5文献　186頁

注12　前掲注2文献　44～45頁

注13　前掲注1文献　61頁。なお、前掲注2文献ではこの鉄針状工具を小形の針状工具と棒状工具に分類した(前掲注2文献　43頁)。

注14　大賀克彦「弥生時代における管玉の流通」(『考古学雑誌』第86巻第4号　日本考古學會)　2001　32頁。なお、大賀氏には、今回の批判を含め、玉作り全般にわたって多くの指摘と教示を賜った。記して感謝したい。

注15　吉岡康暢・小嶋芳孝・田嶋明人・河村好光ほか『塚崎遺跡』(『北陸自動車道関係埋蔵文化財調査報告書』Ⅱ　石川県教育委員会・石川県北陸自動車道埋蔵文化財調査団)　1976。なお、第5図写真資料は(財)石川県埋蔵文化財センター収蔵のものである。

注16　田代弘・岡崎研一・野島永「南丹区域農用地総合整備事業関係遺跡」(『京都府遺跡調査概報』第103冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)　2002　1～40頁。なお、第6図1の鉄針状鉄製品は未発表のもので、今回はじめて実測図を提示した。

注17　木下修・水ノ江和同編「福岡県築上郡築城町所在安武・深田遺跡　安武・土井の内遺跡」(『椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告』4　福岡県教育委員会)　1991

注18　김양미・김희정編『青銅器時代의大坪・大坪人』特別展図録　国立晋州博物館　2002　102～106頁

注19　岡村秀典「中国先史時代玉器の生産と流通－前三千年紀の遼東半島を中心に－」（『東アジアにおける生産と流通の歴史社会学的研究』　中国書店）　1994　3～24頁。なお、河野は石針の先端、回転削痕のみられる部位の形状によって、破砕穿孔と切削穿孔を分離する仮説を呈示した(河野一隆「水晶製玉作と階層性－奈具岡遺跡を中心に－」（『丹後の弥生王墓と巨大古墳』季刊考古学　別冊10　雄山閣出版）　2000)。

23. 竹野遺跡・宮遺跡

所 在 地　竹野郡丹後町竹野小字糸ノ本172ほか

調査期間　平成14年度10月23日～12月20日

調査面積　約600m²

はじめに　今回の調査は、平成14年度竹野沖田地区の府営ほ場整備事業に伴うものである。調査は、２地点(竹野遺跡・宮遺跡)を対象として実施した。竹野遺跡をＡ地点、宮遺跡をＢ地点とした。重機掘削・人力による掘削をし、記録作業を行いながら調査を進めた。

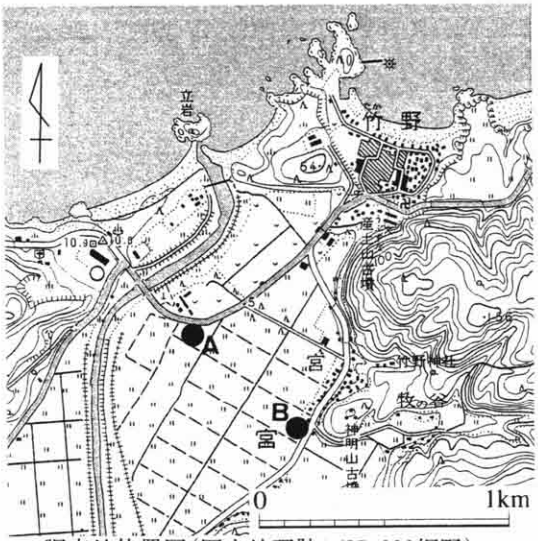
竹野遺跡(Ａ地点)　この地点は７層からなり、４層と６層に遺物の包含が顕著である。４層は弥生時代中期後半頃～古墳時代後期の包含層、６層は弥生時代前期の土器包含層である。７層は、弥生時代前期頃に形成された砂礫層である。調査の結果、この礫面は調査地全面に及び、弥生時代前期には地上に露出していたことがわかった。竹野遺跡の中心部がある砂丘縁辺に、洲浜状の礫面が広がっていたことが判明した。

宮遺跡(Ｂ地点)　Ｂ地点は８層からなり、第４層の黄色粘土上面において、溝を検出した。８層の黒色粘土以下は、暗灰色粘土と黒色粘質土の互層である。

溝は、２本あり、並走する。東側の溝をＳＤ01、西側の溝をＳＤ02とした。ＳＤ01は、幅約２m、深さ約0.6m、約20mにわたって検出した。断面は、ゆるやかな「U」字形である。９層において古墳時代前期初頭の土器を検出した。

ＳＤ02は、幅約２m、深さ約0.6m、約16mにわたって検出した。断面は、ゆるやかな「V」字形である。11層と13層において古墳時代前期末～中期頃の土器を検出した。

まとめ　今回の調査では、竹野遺跡と宮遺跡の２地点について調査を実施した。今回の調査地点は、竹野遺跡がある竹野川河口右岸の微高地と、内陸側にひろがる水田地域の境界部にあたる地点である。この水田地域は低位の沖積面であり、古代にはこの場所は潟湖であったとする意見がある。今回検出した弥生時代前期の洲浜状の礫面は、潟湖の北岸にあたる可能性が考えられ、稲作導入期における竹野遺跡周辺環境についての議論を深める上で重要な成果といえる。宮遺跡で検出した溝は、弥生時代後期末に遡る可能性がある。主に、古墳時代前期初頭に機能した水路であることが判明した。　(田代　弘)



調査地位置図(国土地理院1/25,000網野)

24. 大垣遺跡・一の宮遺跡・難波野条里制遺跡

所 在 地　宮津市字大垣小字大正院・池の本ほか

調査期間　平成14年９月18日～12月20日

調査面積　約600㎡

はじめに　大垣遺跡・一の宮遺跡・難波野条里制遺跡は景勝天橋立の北部、成相山系と阿蘇海・宮津湾に挟まれた狭小な平野部に位置する。この地域はかつて府中と呼ばれ、古代丹後の中心地として栄え、雪舟等楊が「天橋立図」に描いたところとしても有名である。今回の調査は国道178号府中道路新設改良事業に先行して、遺跡の実態を把握するために実施した試掘調査である。

調査概要　今回の調査では道路予定地内に15か所のトレンチを設定し、遺構・遺物の有無および土層断面観察を中心に遺跡の実態を把握することに努めた。その結果、すべてのトレンチから13～15世紀代を中心とする遺物を確認した。遺構としては各トレンチの面積が狭く、遺物包含層までの盛土層が２ｍ前後と厚いこともあり、まとまった形で検出することはできなかったが、17世紀代と思われるピット群・耕作痕を検出したトレンチもある。これらのトレンチの下層からは13世紀代に遡る旧河道や池状の堆積層を確認した。また、難波野条里制遺跡に対して設定した13～15トレンチでは中世段階の水田耕作痕と思われる土壌や足跡などを確認した。

まとめ　今回の調査では旧地形をある程度把握することができた。１～５トレンチは概ね海浜部に相当するものと判断され、６トレンチ付近は中世包含層の面がほかの部分より高く、「嶋堂」の小字が残されていることから絵画資料にみられる嶋堂の近辺に当たると判断される。９トレンチでは旧河道と思われる砂礫層を確認しており「天橋立図」に見られる「高橋」の架けられた河川である可能性が高い。10トレンチで確認した池状の堆積層は籠神社参道の脇に池が存在したことを示していると判断する。また、この層中からは多量の箸を含む木製品、漆器や青磁・白磁などの輸入陶磁器が出土した点が注目される。以上のように、大垣遺跡・一の宮遺跡では予想以上に中世段階の遺構が遺存しているものと判断される。また、難波野条里制遺跡では明確な条里の跡を確認することはできなかったが、集落遺跡である大垣遺跡・一の宮遺跡に付随する生産域であると判断される。今後の面的な調査に期待される。

調査対象地およびトレンチ配置状況図(1/20,000)
(宮津市発行1/10,000宮津市全体図から作成)

(石崎善久)

25. 新堂池古墳群第２次

所 在 地　船井郡園部町新堂小字天野

調査期間　平成14年８月19日～平成15年１月30日

調査面積　約1,000㎡

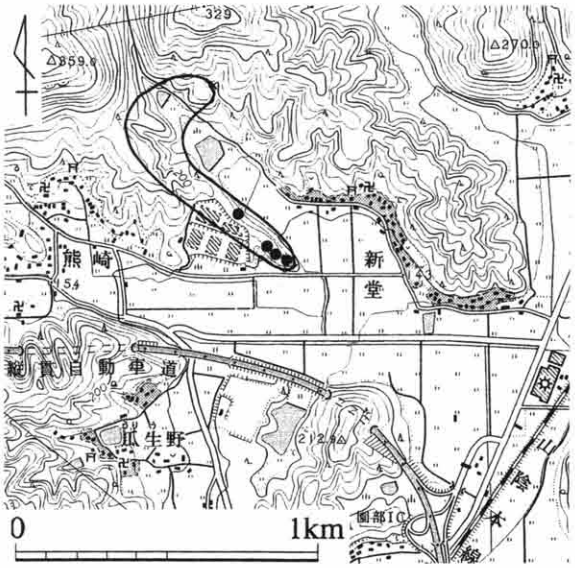
はじめに　今回の調査は、南丹区域農用地総合整備事業の農用道路建設に伴い、緑資源公団からの依頼を受けて実施した。新堂池古墳群は、園部町市街地の北約2.7km、日吉町と接する山塊から南東に延びる低位丘陵上に存在し、22基の古墳の存在が知られている。今回、調査を実施した４基の古墳は、尾根筋先端付近の３基（１～３号墳）と尾根基部側の１基（６号墳）である。

１号墳　尾根の先端部に位置する、直径15m、高さ2.0mの円墳である。埋葬施設は横穴式石室である。石室の上部は盗掘によって失われていた。調査の結果、石室の形態はＴ字形石室であるが、逆「Ｌ」字形の特異な平面形をもつ。羨道は南側に設けられている。玄室規模は、玄門と奥壁の間隔が1.7m、側壁の間隔は2.7m、右袖部（基底部２石目）は0.1m、左袖部は1.7mを測る。羨道は、長さ3.3m、幅1.0mを測る。初葬面では礫床が存在し、共伴する須恵器は陶邑編年ＴＫ10型式である。追葬面では、同ＴＫ217型式の須恵器が供伴している。

２号墳　直径12m、高さ2.0mの円墳である。埋葬施設は右肩袖式の横穴式石室である。羨道は南西側に設けている。玄室規模は、玄門と奥壁の間隔が2.4m、側壁間隔は2.0m、右袖部は1.1mを測る。羨道は、検出長が1.5m、幅は0.85mを測る。初葬面には礫床がみられ、陶邑編年ＴＫ10型式の須恵器が供伴している。追葬面では、同ＴＫ43型式の須恵器の共伴がみられる。

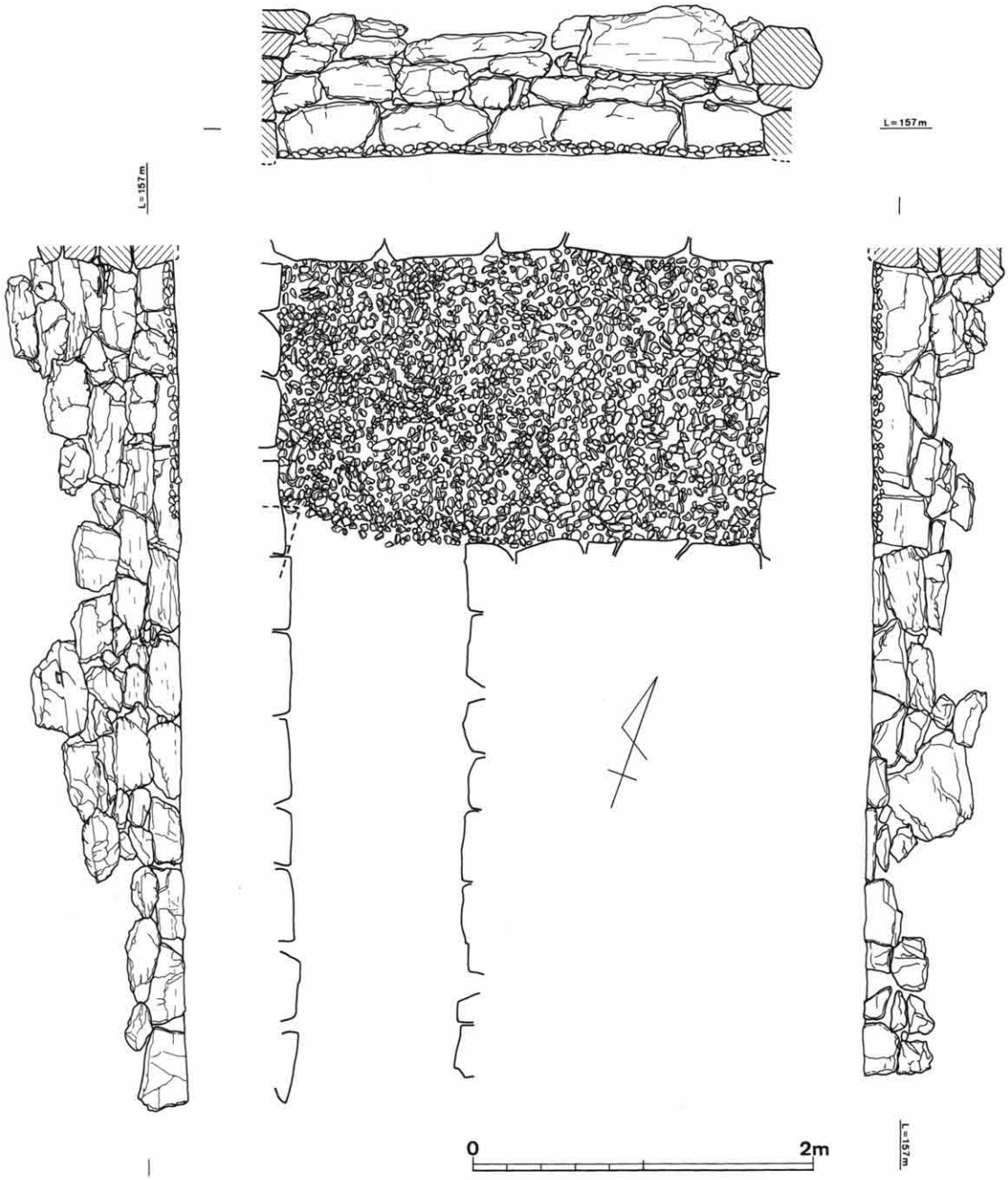
３号墳　一辺10×12mの方墳である。低い墳丘の中央付近から並列状況にある２基の埋葬施設（木棺直葬）を検出した。２基の墓壙はほぼ同規模の長方形プランであり、全長４m前後、幅1.4m前後の掘形を測る。いずれも土器の副葬はみられないが、武器・農工具など多くの鉄製品の出土をみている。墳丘裾の溝内から陶邑編年ＭＴ15型式の須恵器が出土している。

６号墳　やや離れた尾根斜面に位置する一辺10m前後の方墳である。墳丘中央部で１基の埋葬施設（木棺直葬）を検出した。長方形プランの墓壙は、全長4.4m、幅は2.0mを測る。棺内および墓壙内から鉄製の剣・鏃・鎌の出土をみたほか、墓上から陶邑編年ＴＫ47型式の須恵器の出土をみている。



第１図　位置図（国土地理院1/25,000園部）

まとめ　今回調査を実施した４基の古墳は



第２図　１号墳石室実測図

方墳２基、円墳２基であり、方墳では木棺直葬、円墳は横穴式石室に埋葬施設の形態が分かれた。また、築造時期においても方墳は中期末～後期前葉であり、円墳は後期中葉の築造であることが判明した。石室の形態においては、１号墳のＴ字形石室は、京都市本山神明１号墳(北区上賀茂)に次いで府内２例目となった。また、Ｔ字形石室の中でも特異な「Ｌ」字形例は、知見では石川県蝦夷穴古墳が知られる。２号墳は、横穴式石室の中でも少数派である右肩袖式石室である。隣接して築かれた同時期の古墳において、規模・使用石材・礫床・埋葬状況など、多くの共通性が認められるが、石室形態は大きく異なる状況にある。今回の調査成果は、当古墳群の被葬者集団や、南丹波地域の石室導入期古墳を考える上で、貴重な資料となるものである。

（竹原一彦）

26. 里（さと）遺跡第５次

所 在 地　亀岡市旭町里垣内

調査期間　平成14年11月8日～平成15年３月10日

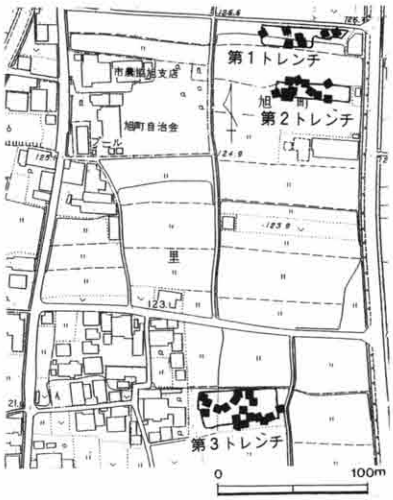
調査面積　約2,400m²

はじめに　里遺跡の発掘調査は、京都府南丹土地改良事務所が施工する府営圃場整備事業に伴って実施する事前調査である。平成14年度は、４か所に調査区を設定し発掘調査を実施した。

調査概要　第１～３トレンチでは、陶邑編年ＴＫ47型式から同ＴＫ209型式にかけての竪穴式住居跡を約40基検出した。竪穴式住居跡は、一辺５～７ｍを測り、住居の竈の位置によって、竈が北辺中央部に設けられる一群と、東辺中央部に設けられる一群に分類することができる。今後、各竪穴式住居跡の存続時期を正確に把握し、集落の成立や廃絶などについて整理する必要がある。一方、第２・４トレンチでは、奈良時代のピット群を検出しており、掘立柱建物跡が一帯に散在していることを示している。また、第３トレンチでは、弥生時代の方形周溝墓の一部と考えられる溝を複数確認しており、第３トレンチを中心に拡がっていることが予想される。

第１図　調査地位置図(亀岡市史より転載・加筆)

まとめ　里遺跡の発掘調査では、古墳時代中期から後期の竪穴式住居跡を約40基確認した。その集落規模や竪穴式住居跡の密集度から南丹波地域を代表する古墳時代後期の集落遺跡であることがわかった。一方、里遺跡の集落規模や竪穴式住居跡の密集度は、集落内の有力者が古墳を築造するに足る勢力を有していたことを示している。里遺跡の南方約900ｍの丘陵には、木棺直葬墳と横穴式石室墳が混在する美濃田古墳群が所在しており、里遺跡と美濃田古墳群の存続時期がほぼ同時期であることや双方の位置関係が近接していることなどから、美濃田古墳群の築造集団の集落こそが、里遺跡であったと考えられる。集落と墓の関係を考えるうえでの基礎資料を提示できた意義は大きい。平成15年度も継続して発掘調査が実施される予定である。



第２図　竪穴式住居跡分布図

（小池　寛）

27. 平安京（へいあんきょう）跡右京一条三坊九・十町（第10次）

所 在 地　京都市北区大将軍坂田町29番地

調査期間　平成14年10月28日～平成15年３月10日

調査面積　約1,300㎡

はじめに　調査地は府立山城高等学校の敷地内にある。昭和54・55年の調査（第１・２次）で、九町域の北側では、大規模な建物跡群が「コ」の字形に配置された平安時代初期の貴族の邸宅跡が確認された。また、平成10・11年度の調査（第８・９次）では、邸宅の南門跡（四脚門）が確認された。これらの調査結果から、九町域には１町の敷地を占める邸宅があったことが推定されている。

調査概要　今回の調査は、九町域の東南部と十町域の北東部での遺構の有無を確認するとともに、その間を通る東西道路である鷹司小路の検出を目的として調査を実施した。

①九町域の遺構　１町を占める邸宅遺構があり、築地が四方をめぐることが想定されている。今回の調査地では、第８・９次調査で確認した南側の築地跡の東延長部を検出した。築地自体は残っていないが、北側の築地の内溝ＳＤ02018と南側の鷹司小路北側溝ＳＤ02022の間に想定される。

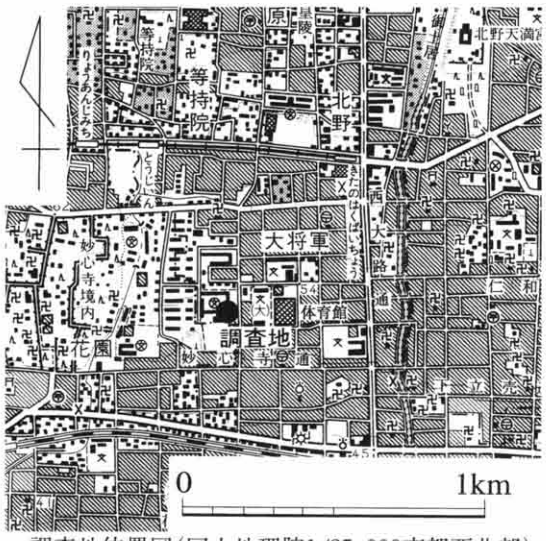
②鷹司小路　北側溝であるＳＤ02022は、第８・９次調査でも確認されておりさらに東延長部を確認した。南側溝については、文献や条坊計画線から想定される位置では確認できなかったが、想定位置より約２ｍ北側で東西方向の溝ＳＤ02109を検出した。

③十町域の遺構　十町域では、平安時代中期の小規模な掘立柱建物跡ＳＢ02165（２間×２間）を１棟検出した。

まとめ　今回の調査では、九町域の邸宅遺構に付随する南側の築地跡や内溝、鷹司小路の両側溝、十町域の掘立柱建物跡などの遺構を検出し、貴族の邸宅遺構や宅地利用の変遷を検討するうえで良好な資料を追加することができた。九町域では建物跡は確認されず、そのほかの遺構も希薄であることから主要な施設は北側に集中していたと考えられる。さらに、鷹司小路に関しては、検出した両側溝の心々距離は約５ｍであった。すなわち『延喜式』「京程」条で記載されているより約２ｍほど路面幅が狭かったことを確認した。

今後、これらの調査成果を踏まえ検討していきたい。

（村田和弘）



調査地位置図（国土地理院1/25,000京都西北部）

28. 長岡京跡右京第753次・井ノ内遺跡・上里遺跡

所 在 地　長岡京市井ノ内広街道34－7

調査期間　平成14年12月11日～平成15年2月21日

調査面積　約400㎡

はじめに　この調査は、主要地方道大山崎大枝線緊急地方道整備事業に伴い、京都府土木建築部の依頼を受け実施したものである。調査地は、小畑川右岸の善峰川により形成された沖積地南側の低位段丘上に位置する。長岡京の条坊復原推定によると、右京二条四坊一町(新条坊：右京二条四坊三町)にあたる。

調査概要　検出された古墳時代の遺構には、竪穴式住居跡1基、土坑1基がある。竪穴式住居跡は削平を受けているが、平面規模約3×4mの住居が復原され、南西辺中央部には竈の痕跡が残る。土坑は平面「L」字形をなし、内部から須恵器・土師器が多量に出土した。これらの遺構は、6世紀末～7世紀前半のものである。

中世の遺構には、溝1条、土坑1基がある。溝は東西方向にのびる幅2.3m、深さ0.7m、断面「U」字状をなし、約13mを検出した。今回の調査地の東隣で昭和53・54年度の調査(右京第27次調査)で検出されたSD2731の西側延長部分にあたる。12世紀後半に機能し13世紀前半には埋没したものである。

そのほか、時期不明の遺構として掘立柱建物跡2棟、道路状遺構がある。道路状遺構はトレンチ中央部を南北にのびるもので、両側溝を検出した。側溝間の距離は幅約3mを測り、トレンチ北側では一旦、溝が約4.5m途絶えたあと、また北方へのびていく。

まとめ　長岡京期の遺物は少量出土したが、遺構は検出されなかった。条坊推定では路面上となり、遺構が検出されないことを裏付けるものかもしれないが、その理由については今後検討を要する。道路状遺構については、何らかの境界とも考えられるが、条里・条坊の地割りを踏襲している可能性がある。

中世の溝については、過去の調査と合わすと南北23m以上、東西19m以上の方形に区画される溝を検出したことになり、12世紀後半を中心とした中世居館に伴う外郭施設と考えられる。また、この付近は富坂荘・長岡荘の荘園が存在していたことが文献からも知られており、関連が問われるところでもある。

調査地位置図
(国土地理院1/25,000京都西南部)

(増田孝彦)

29. 芝山遺跡（しばやま）

所 在 地　城陽市富野上ノ芝３番地ほか

調査期間　平成14年７月８日～平成15年２月27日

調査面積　約4,500㎡

はじめに　今回の調査は、京都府が計画する府道上狛城陽線緊急地方道整備事業に伴う発掘調査である。芝山遺跡は東西940m、南北870mにおよぶ広範な遺跡であり、過去において10数次にわたる調査が、城陽市教育委員会および当調査研究センターにより実施されてきた。

調査概要　今年度はＡ～Ｇ地区の７地区を対象に調査を行った。各地区名は便宜上北側から地区名を付している。以下に主な地区の概要を述べる。

Ａ地区では古墳時代の木棺墓１基、土器棺墓１基、竪穴式住居跡４基、奈良時代の掘立柱建物跡７棟などを検出した。とくに、ほぼ真南北方位にのる掘立柱建物跡は２間×６間の東西棟および２間×７間の南北棟建物が鍵型に配置された状態で検出されており、官衙関連の施設とも考えられる。

Ｄ地区では竪穴式住居跡１基、掘立柱建物跡３棟、建物跡を画する溝などを検出した。溝からは８世紀中頃～９世紀前半頃に属する土器が出土した。検出された掘立柱建物跡のうち１棟は２間×３間の東西棟の布掘り総柱建物である。柱掘形は隅丸方形で、検出面からの深さは0.7mを測る。柱穴は径約0.3mである。

Ｅ地区では竪穴式住居跡１基、掘立柱建物跡４棟、溝５条、土坑などを検出した。Ｄ地区の遺構との関連が考えられる。

Ｆ地区では、一辺が約17mの方墳を検出した。主体部は後世の削平により消滅し、周濠内から円筒および形象埴輪片や周濠の埋没過程で混入した８世紀前半の土器などが層位的に出土した。古墳の時期は、５世紀後半である。

調査地位置図
（国土地理院1/25,000宇治・田辺）

Ｇ地区では、墳形不明の古墳の溝を検出した。溝からは、わずかに円筒埴輪片が出土した。なお、今回検出したＦ・Ｇ地区検出の古墳は関係機関と調整し、それぞれ芝山古墳群第Ⅲ支群１・２号墳と呼称することにした。

まとめ　各地区で古墳時代から平安時代にかけての遺構を検出した。15年度は、Ａ地区の南側隣接地の調査を予定しており、官衙的施設の構造が明らかになるものと思われる。

（柴　暁彦）

30. 内里八丁（うちさとはっちょう）遺跡第19次

所 在 地　八幡市内里小字日向堂

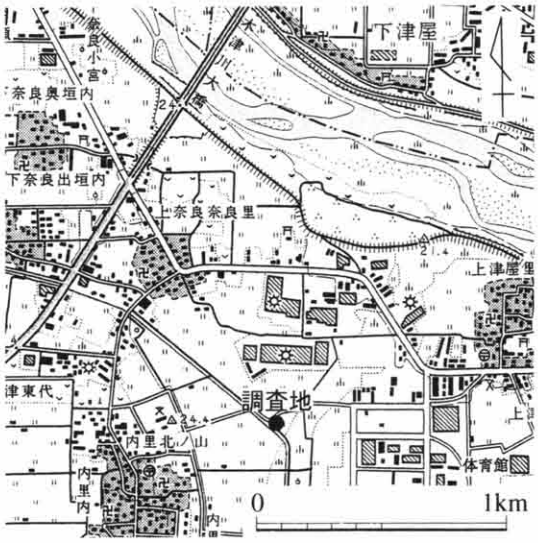
調査期間　平成14年12月18日～平成15年3月5日

調査面積　約400㎡

はじめに　今回の調査は、主要地方道八幡木津線道路新設改良事業に伴うもので、京都府土木建築部の依頼を受けて実施した。内里八丁遺跡は、木津川西岸の自然堤防上に位置する。弥生時代から中世にかけての複合遺跡である。

調査概要　今回の調査では、調査地の東半部で2か所の島畠を確認した。調査地西半部は、中世以降の水田と考えられる砂混じりシルト層が何層にもわたって堆積しており、中世以前の遺構などはすでに削平されているものと考えられる。

東半部の島畠やその間の溝部からは、中世以降の耕作溝・柱穴、中世の耕作溝・柱穴、7世紀頃の土坑・溝状遺構・柱穴、古墳時代前期の溝状遺構などを検出した。7世紀の遺構は、その遺構埋土に焼土や炭を多量に含む。溝状遺構からは須恵器杯蓋やほぼ完形に復原できる土師器甕などがまとまって出土した。古墳時代前期の溝状遺構は、ほぼ南北方向に延びており、布留式併行期の甕などが出土した。部分的な検出のため、その性格は不明である。



第1図　調査地位置図（国土地理院1/25,000淀）

まとめ　今回の調査では、中世以降から古墳時代前期にかけての4時期にわたる遺構を検出した。中世およびそれ以降は、農業関係と考えられる遺構が主である。7世紀の遺構は、調査地中央部に集中している。遺物はあまり時期差がみられず、短期間のうちに次々と営まれたものとみられる。古墳時代前期の遺構は溝状遺構のみであり、今回の調査地付近は集落の縁辺部付近にあたるものとも考えられる。

（引原茂治）

第2図　古墳時代前期および7世紀の遺構（南から）

31. 魚田遺跡第６次・西村遺跡・門田遺跡

所 在 地　京田辺市大字大住小字小松原・西村・大嘗料

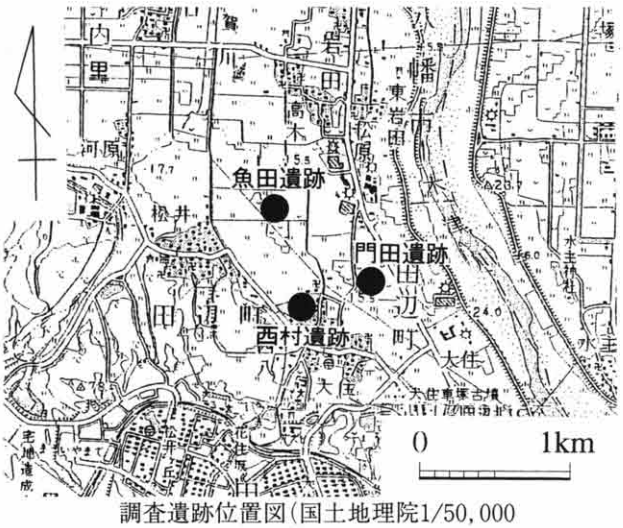
調査期間　平成14年12月５日～平成15年２月13日

調査面積　約300㎡

はじめに　魚田遺跡・西村遺跡・門田遺跡は京田辺市北部、木津川左岸の沖積平野上に立地する集落跡・遺物散布地である。これら３遺跡の西方には弥生～平安時代の集落遺跡である新田遺跡や女谷・荒坂・松井の各横穴群が、南方には古墳時代前期の前方後方墳である大住車塚古墳・大住南塚古墳が存在する。今回の発掘調査は、大住地区府営ほ場整備事業に伴う試掘調査で、京都府山城土地改良事務所の依頼を受け、各遺跡における遺構・遺物の分布状況ならびに埋没深度などの確認を主たる目的として実施した。調査は２m四方の試掘坑を３遺跡で合計75か所設定し、これを人力で地表下１mまで掘削した。

調査概要　75か所のトレンチの内訳は魚田遺跡37か所、西村遺跡28か所、門田遺跡10か所である。トレンチは各遺跡内にほぼ均等に配置した。３遺跡中、魚田遺跡では東半ほぼ全域において、表土直下に近代の木津川氾濫による厚さ0.1～0.7mの砂層の堆積を確認した。また、西半において地表下0.5～1.0mで旧木津川の河川堆積とみられる砂層や、伏見地震(1596年)によると考えられる噴砂痕跡を確認した。西村遺跡および門田遺跡でも、多くのトレンチで河川氾濫による洪水堆積を確認した。遺構としては、魚田遺跡で２か所、門田遺跡で１か所のトレンチで落ち込み状の痕跡を認めたのみである。

出土遺物は、江戸時代後期のスリ鉢・陶磁器片と古墳～鎌倉時代の須恵器・土師皿・黒色土器Ｂ類・瓦器椀を中心とする２グループに分かれ、それぞれが各遺跡・各トレンチの上層の暗灰褐色系砂質土層、下層の青灰色系粘質土層からまとまって出土した。このほか、格子目タタキを施した甕の破片が魚田遺跡と西村遺跡からそれぞれ出土している。



調査遺跡位置図(国土地理院1/50,000
京都南東部・大阪北東部・宇治・奈良)

まとめ　各遺跡でトレンチ各所に洪水痕跡を認めた。３遺跡を通して遺構の兆候は弱く、遺構は存在したとしても度重なる洪水により消失してしまった可能性が考えられる。また、出土遺物の多くは磨耗し、また時期幅も認められるため、遺物や遺物包含層についても、洪水に伴う可能性は否定できない。

(中村周平)

32. 薪（たきぎ）遺跡第４次

所 在 地　京田辺市薪小字石ノ前・狭道

調査期間　平成14年11月25日～平成15年２月25日

調査面積　約730㎡

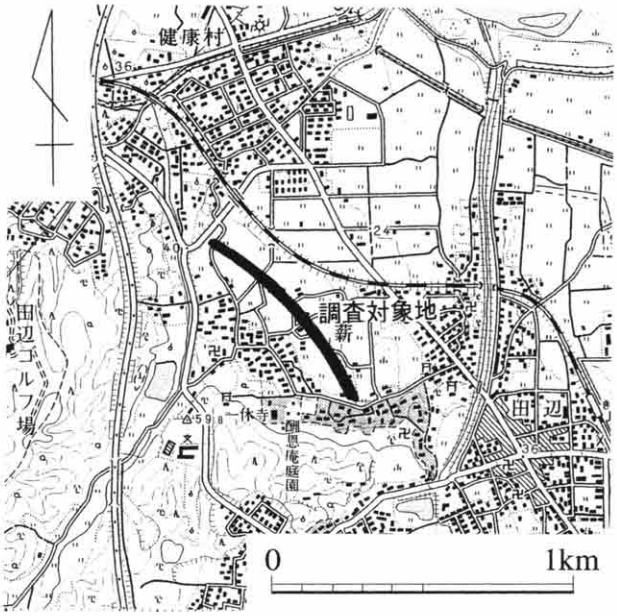
はじめに　薪遺跡は、南山城盆地を貫流する木津川左岸に位置し、北流する手原川の氾濫による扇状地に立地する。古墳時代と平安～鎌倉時代の集落遺跡に想定されており、昨年度の調査では新たに縄文時代の遺構・遺物が発見されるなど、広範囲の複合遺跡として知られている。今回の調査は府道の建設に伴う試掘調査である。

調査概要　今回調査では道路計画線内に試掘調査トレンチを６か所設定した。南から第１～６トレンチとし、調査を実施した。

第１トレンチは、丘陵下段部に当たり、近世の民家の基礎を検出した。地山は、礫層と砂層の互層を為し、洪積層か土石流による堆積層かは不明である。第２トレンチは、丘陵変換線の沖積層で湿田である。第３トレンチでは、掘立柱の柱穴６か所（一列、柱間間隔2.7m）を検出した。中世の柵列跡と思われる。第４トレンチでは、近世の手原川の複数回の氾濫跡を確認した。第５トレンチでは、近世・中世・平安時代・古墳時代・縄文時代の各遺構が残存し、また、各遺構の基盤層の地盤も安定しており、掘立柱建物跡・溝・土坑・溝などを検出した。掘立柱建物跡は平安時代に属するものと思われる。このほか複数の土坑から弥生土器や縄文土器が出土した。第６トレンチでは、泥土が厚く堆積しており、瓦器・土師器・陶磁器など、中世から近世の遺物が出土した。湿田あるいは湿地帯であったと思われる。

まとめ　今回の調査は、広大な面積を有する薪遺跡を南北に縦断する試掘調査である。道路計画線内の南半に設けた第１～４トレンチでは、第３トレンチを除き遺構はほとんど確認できなかった。一方、北半付近に設定した第５トレンチでは、縄文時代以降各時代の遺構・遺物が検出され、遺跡の様相が明らかになった。今回の調査地に近接する昨年度の調査成果と類似する。今後の本格的な調査が期待される。

（竹井治雄）



調査地位置図（国土地理院1/25,000田辺）

33. 椋ノ木遺跡第６次

所 在 地　相楽郡精華町大字下狛小字神ノ木ほか

調査期間　平成14年６月５日～平成15年２月10日

調査面積　約3,200m²

はじめに　椋ノ木遺跡は、木津川左岸の自然堤防上に立地する集落遺跡である。過去の調査では、平安時代末～鎌倉時代の屋敷地、古墳時代前期の竪穴式住居跡や縄文時代後期の焼土などが検出されている。とくに、平安時代末から鎌倉時代は遺構・遺物ともに豊富で、木津川の舟運に関連する集落と考えられている。また、集落の変遷や地域の土器編年を考える上で不可欠な資料が数多く得られ、当遺跡は、南山城を代表する中世前期の集落遺跡のひとつとなっている。

今回の調査は、木津川上流浄化センター建設に伴うもので、京都府土木建築部の依頼を受けて実施した。調査位置は、平成８年度に実施した４トレンチの東隣にあたる。

調査概要　歴史時代の遺構には、調査区中央部で検出した掘立柱建物跡ＳＢ１・２のほか、井戸ＳＥ356、坪境溝などがある。掘立柱建物跡ＳＢ１は、身舎が南北２間の東西棟で北辺と南辺に庇が付く。東西６間以上の規模になる。身舎の南側の柱のひとつを抜き取った後に、土師器皿などの土器が納められており、建物を壊すにあたって何らかの祭祀を行ったものと思われる。10世紀の中頃の建物である。掘立柱建物跡ＳＢ２は、掘立柱建物跡ＳＢ１の北西部に重複した位置で見つかった建物跡である。南北３間×東西２間以上の総柱の建物である。柱穴の多くには礎板の石が残っていた。建物の時期は、鎌倉時代頃と思われる。井戸ＳＥ356は直径約2.9mの石組み井戸である。底には水溜の結桶が据えられていた。井戸は上部の石組みを抜き取って、一気に埋め戻されたようである。時期は14世紀前半である。坪境溝は調査区北部で検出した東西方向の溝である。この位置は、調査地周辺に残る相楽郡条里遺構の坪境にあたり、現在も小字の境界となっている。また、木津川上流浄化センター建設工事が始まるまでは、畑の境界線になっていた。検出された溝は、鎌倉時代から室町時代にかけてのものである。

調査地位置図（国土地理院1/25,000田辺）

古墳時代の遺構には、東西約8.6m、南北約7.0mの隅丸方形にめぐる溝ＳＤ189がある。溝は深さ約10cm程度しか残っていなかったが、北辺の中央部がやや深くなっており、須恵器有蓋高杯が５セット分かたまって出土した。この溝は古墳の周溝と考えている。坪境溝の北側でも、埴輪や古墳時代中期の須恵器甕などが見つかっているので、

調査地の北側部分には、かつて５世紀後半から６世紀前半頃の古墳が数基存在していたものと思われる。

弥生時代の遺構には調査区北部で検出した溝ＳＤ1001・1002がある。溝ＳＤ1001は西北西から東南東に、溝ＳＤ1002は南西から北東に続く深さ約1.2mの溝である。幅は溝ＳＤ1001が約８ｍ、溝ＳＤ1002が約７ｍを測る。いずれも平面形が直線的で、断面形が「Ｖ」字形をしていることから、人工的に掘られたものと考えられる。溝の埋土は４層に分けられ、下から２番目の層から弥生時代後期後半の土器が大量に出土した。埋土の状況や出土する遺物の様相が共通することから、両者は同時に埋没したものと考えられ、２条の溝は調査区の東側で合流するものと予想される。これらの溝は、遺跡の立地する微高地の北端付近に位置することから、集落の北を限る溝と見ることができる。

なお、これらの溝の底を断ち割ったところ、弥生時代中期と考えられる溝を検出した。溝ＳＤ1001・1002は、これらの溝を再掘削されたものと思われる。

まとめ　今回の調査の結果、以下のようなことが明らかになった。

①これまで、当遺跡の中世集落は、11世紀後半に成立するものと考えられていたが、掘立柱建物跡ＳＢ１は10世紀中頃に建てられた建物であり、鎌倉時代まで続く椋ノ木の集落の成立が平安時代中期に遡ることが判明した。

②掘立柱建物跡ＳＢ１は、条里型地割の方向に沿って建てられており、周辺における条里型地割の成立も平安時代中期以前に遡る可能性がでてきた。この建物跡に伴う土器埋納柱穴から土師器皿、土師器甕などが出土した。建物を壊す時に土師器皿などを埋める祭祀は平安京跡にも類例があり、都と同様の祭祀が行われていたことを示す興味深い事例と言える。

③調査地北部に数基の古墳があったことが判明した。近年、山城地域では、久御山町市田斉当坊遺跡や大山崎町下植野南遺跡などで低地の小規模な古墳の発見が相次いでいる。木津川に隣接する低地でも古墳が発見されたことは、山城地域の古墳時代史に、新たな視点を提供するものである。

④弥生時代後期後半の大規模な溝を２条検出した。これらの溝は、集落の北を限ると考えられる。当遺跡では、これまでに弥生時代の土器や石器は見つかっていたが、遺構が見つかったのは初めてである。なお、これらの溝は、弥生時代中期の溝を再掘削したものと考えられる。

⑤溝ＳＤ1001・1002から出土した大量の土器は、当地域の弥生土器編年の基準資料になるものと思われる。

⑥溝ＳＤ1002の南側には弥生時代の集落が存在していたものと推定されるが、住居跡などは検出されなかった。

（森島康雄）

34. 片山（かたやま）古墳群

所 在 地　相楽郡木津町大字木津小字片山

調査期間　平成14年10月28日～平成15年１月20日

調査面積　約330m²

はじめに　この調査は、「関西文化学術研究都市」の整備事業に伴い、都市基盤整備公団の依頼を受けて実施したものである。調査地は、木津町の東部の丘陵上に位置する。調査は、丘陵の先端に位置する片山２号墳の全面調査と、その背後の古墳状隆起の試掘調査を行った。

調査概要　遺跡地図に片山２号墳として登録されていた古墳状隆起は、調査前の現状として墳頂部中央に大規模な攪乱が認められた。調査は、表土掘削と並行して、この攪乱部分の清掃を行った。この結果、墳頂部中央の攪乱は、太平洋戦争中に設置された砲台陣地跡の可能性が高いと考えられた。また、墳丘と考えられたものの一部はこの砲台陣地造成に伴う盛土と判断された。この盛土を除去して、さらに遺構の検出に努めたが、古墳に関連する遺構・遺物はともに確認することはできなかった。

片山２号墳の周辺では、このほか、集石遺構２か所、土坑１基などを検出したが、いずれも遺物を伴わないため、時期は不明である。

また、丘陵部の試掘調査部分でも調査を進めたが、顕著な遺構は検出されず、上記の砲台陣地跡と考えられる攪乱と同様のものを１か所確認したのみである。

まとめ　今回の調査の結果、片山２号墳は古墳ではないと判断するに至った。また、周辺についても、時期不明遺構があるものの、出土遺物はいずれも近・現代のものであり、近世以前の遺構が存在する可能性はほとんどないと考えられる。

（筒井崇史）

調査地位置図（国土地理院1/25,000奈良）

35. 内田山遺跡・内田山古墳群

所 在 地　相楽郡木津町大字木津小字内田山

調査期間　平成15年１月21日～２月27日

調査面積　約170㎡

はじめに　この調査は、「関西文化学術研究都市」の整備事業に伴い、都市基盤整備公団の依頼を受けて実施したものである。調査地は、前記の片山古墳群の所在する尾根のすぐ北側に位置する。調査は、第１次調査で確認した内田山Ｂ１号墳の南西側の丘陵斜面を対象として実施したものである。

調査概要　調査は、過去の調査に引き続くものであるため、新たに第６・７トレンチを設けて調査を行った。

第６トレンチでは、弥生時代と考えられる土坑２基（ＳＫ111・112）、土器溜まり１か所（ＳＸ113）のほか、時期不明もしくは近世以降の溝を多数検出した。土坑と土器溜まりから出土した弥生土器は、細片が多いものの、木津城山遺跡出土土器に類似するものや、やや後出するものがあり、弥生時代後期前葉から一部中葉にかけてものと考えられる。

第７トレンチでは、時期不明もしくは近世以降の溝を複数検出したが、弥生時代の遺構・遺物は全く検出しなかった。以上のほか、表土中より、中世以降の土師器や内田山Ｂ１号墳に伴うと思われる埴輪片などが出土した。また、第６トレンチでは内田山Ｂ１号墳の南辺の東端コーナーを検出したが、削平・攪乱が著しく、詳細は不明である。

まとめ　これまでの調査では、ごく少量の弥生土器片が出土していたのみであったが、今回の調査では、土坑２基と土器溜まり１か所から多数の弥生土器が出土し、この丘陵上に弥生時代の遺構が存在する可能性が高まった。ただし、竪穴式住居跡などはこれまで確認されておらず、内田山Ｂ１号墳の築造などによって削平されてしまった可能性もある。また、内田山Ｂ１号墳の北側にはやや平坦な地形が広がることから、この付近に竪穴式住居跡などが広がっていた可能性がある。

（筒井崇史）

府内遺跡紹介

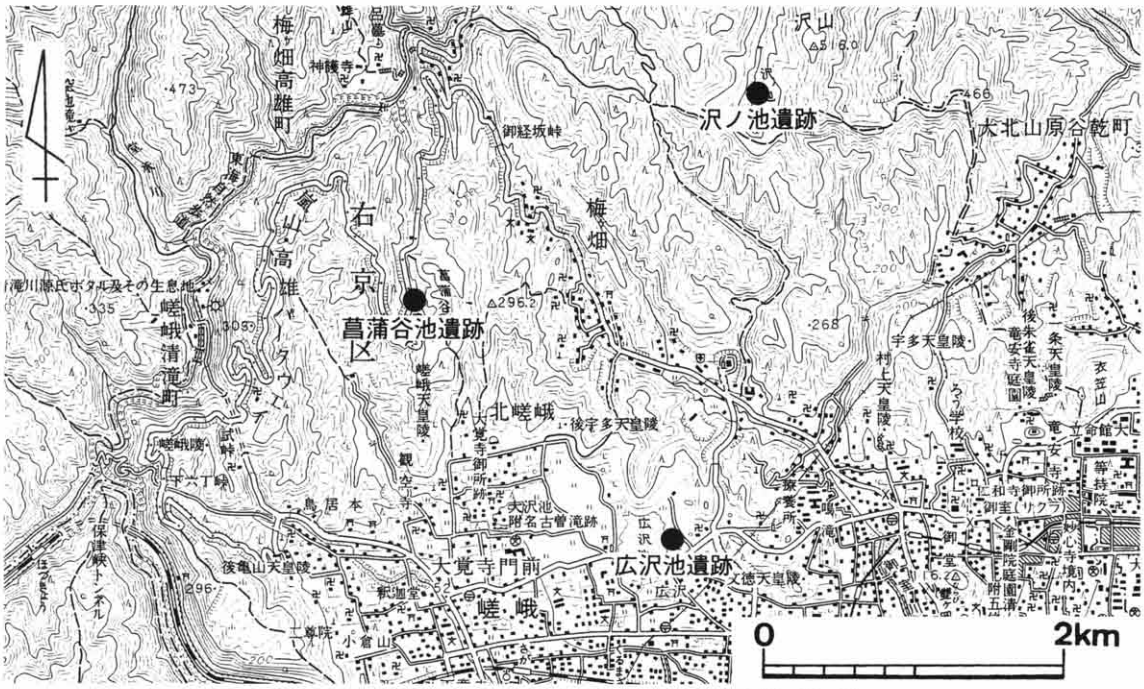
95. 右京の旧石器時代遺跡
－広沢池遺跡・沢ノ池遺跡・菖蒲谷池遺跡－

京都府では、旧石器時代の遺跡が発掘調査された事例は少ないが、今回紹介する３遺跡(四手井1970、四手井・木村・武山1972)は、研究の初期段階から知られていた後期旧石器時代の遺跡である。

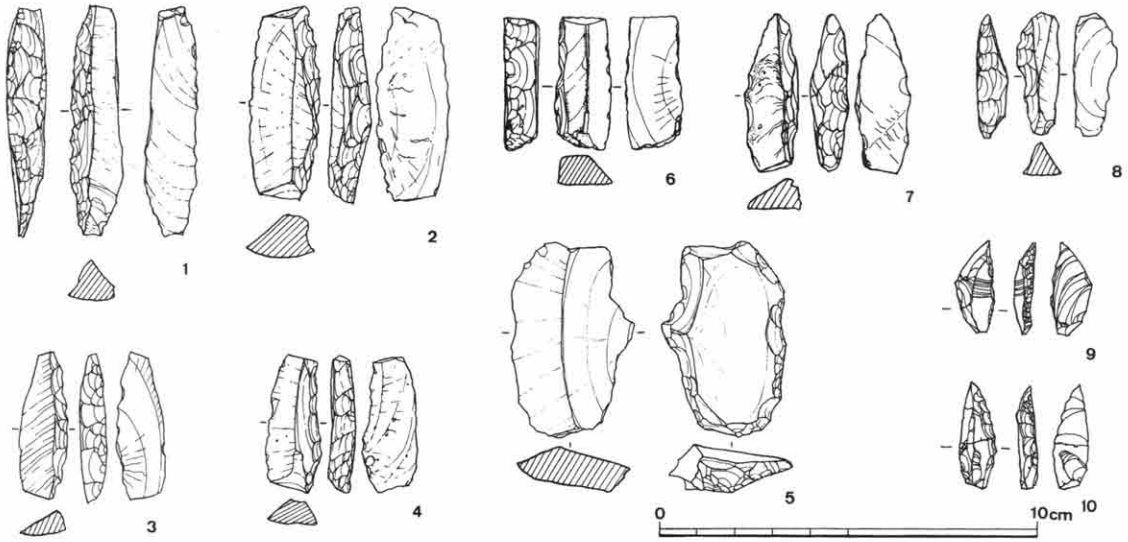
広沢池遺跡

京都市右京区嵯峨にある広沢池の東岸に位置する遺跡である。この池は、北山山地南麓の標高50mの台地上に位置している。広沢池は永祚元(985)年に宇多天皇の孫、寛朝が建てた遍照寺に付属して作られたとされる池である。この広沢池は、観月の地として知られるようになり、源頼政によって「いにしえの人は　汀に影たえて　月のみ澄める　広沢の池」と詠まれ、江戸時代には芭蕉が「名月や池をめぐりて夜もすがら」と詠んだとされる。

出土した遺物は、瀬戸内技法と呼ばれる近畿・瀬戸内地域で多く認められる石器の作り方で製作された国府型ナイフ形石器とその関連資料が多く発見されている。他の石器には縦長の剥片を用いた掻器などがある。表面採集資料であるため同一に論議できないが、大阪府高槻市に所在する郡家今城遺跡Ｃ地点発掘の資料と類似している。このことから後期旧石器時代後半期の石器群と類推することができる。



第１図　遺跡分布図(国土地理院1/50,000京都西北部)



第２図　旧石器時代遺物（１～５：広沢池遺跡、６～８：沢ノ池遺跡、９・10：菖蒲谷池遺跡）

沢ノ池遺跡

右京区鳴滝沢の沢ノ池畔にある後期旧石器時代の遺跡である。沢ノ池は標高約370mの高さにある南北約500m、東西約100mの池である。渇水期の地表調査によって平安時代の建物跡や池状の遺構なども発見されている（津々池2001）。旧石器時代の遺物としてはサヌカイト製の国府型ナイフ形石器があり、広沢池遺跡と近い時期の遺跡と考えられている。

菖蒲谷池遺跡

右京区北嵯峨朝原山町の標高約200mにある人造池菖蒲谷池畔の遺跡である。遺跡のある菖蒲谷は『平家物語』巻十二に、小松三位中将（平維盛）の北方、若君、姫公が隠れ住んだ地として登場する。この遺跡からは縄文時代の石器とともに旧石器時代のナイフ形石器が採集されている。ナイフ形石器は広沢池遺跡のものとは違い、縦長剥片を用いたナイフ形石器、小形の切出型ナイフ形石器である。このようなナイフ形石器の違いは、年代差としてとらえられ、長年にわたりこの地域で旧石器時代人の活動があったことを示している。

（中川和哉）

遺跡へのアクセス：広沢池遺跡は、バス停「山越」下車、西に徒歩十分。沢ノ池遺跡は、北区中川のバス停「北山中川」下車、東海自然歩道を南に行くことによって到着する。道が狭く、人家などがないため複数による行動が望ましい。菖蒲谷池遺跡は高雄パークウェーを通り、簡易に近づくことが可能である。北嵯峨から上る道もある。

参考文献

四手井晴子「京都市北嵯峨菖蒲谷池の石器」（『古代文化』第22巻第６号　（財）古代學協會）　1970　pp.136-138

四手井晴子・木村孝雄・武山峯久「京都市広沢池・沢池の石器」（『古代文化』第24巻第10号　（財）古代學協會）　1972　pp.285-302

津々池惣一「沢ノ池畔の建物跡」（『リーフレット京都』№149　（財）京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館）　2001

長岡京跡調査だより・85

平成15年を迎えて、長岡京連絡協議会は、１月22日・２月26日・３月26日に開催された。報告のあった京内の発掘調査は宮内４件、左京域８件、右京域14件であった。京域外の３件を併せると、合計29件となる。

調査地一覧表(2003年３月末現在)

番号	調査次数	地区名	調査地	調査機関	調査期間
1	宮内第420次	7ANCKM-5	向日市向日町北山32-2・33-1	(財)向日市埋文	1/28～2/28
2	宮内第421次	7ANBKJ-3	向日市寺戸町古城3-1・3-3	(財)向日市埋文	2/12～2/28
3	向日市立会第02121次	7ANEOK	向日市鶏冠井町御屋敷25-3・25-5	(財)向日市埋文	1/8～1/28
4	向日市立会第02122次	7ANEOK	向日市鶏冠井町御屋敷25-3・25-4	(財)向日市埋文	3/11～3/14
5	左京第473次	7ANEUK-4	向日市鶏冠井町馬司1	(財)向日市埋文	6/17～12/20
6	左京第479次	7ANMST-7	長岡京市神足芝本地内	(財)長岡京市埋文	12/2～3/28
7	左京第480次	7ANDSD-3	向日市森本町下町田2-1・2-2	(財)向日市埋文	11/18～2/7
8	左京第481次	7ANFNZ-9	向日市上植野町西小路20	(財)向日市埋文	1/9～1/22
9	左京第482次	7ANFKZ-6	向日市上植野町北小路24・24-1	(財)向日市埋文	2/12～2/14
10	左京第483次	7ANEJS-16	向日市鶏冠井町十相15-1	(財)向日市埋文	2/12～2/20
11	左京第484次	7ANMST-8	長岡京市神足芝本8・9・10	(財)長岡京市埋文	2/27～3/28
12	向日市立会第02139次	7ANFJK	向日市上植野町浄徳寺2-3	(財)向日市埋文	2/19～2/21
13	右京第746次	7ANUDC	京都市西京区大原野石見地内	(財)京都市埋文研	8/28～2/1
14	右京第748次	7ANMWY-8・MSL7	長岡京市東神足一丁目地内	(財)長岡京市埋文	11/25～1/17
15	右京第752次	7ANKDD-4	長岡京市開田四丁目5	(財)長岡京市埋文	11/5～12/20
16	右京第753次	7ANGHD-5	長岡京市井ノ内広海道34-7	(財)京都府埋文	12/11～2/21
17	右京第755・762次	7ANBNI-6	向日市寺戸町西垣内15-1	(財)向日市埋文	11/26～2/28
18	右京第757次	7ANMSL-8・MWY-9	長岡京市東神足一丁目12-2ほか	(財)長岡京市埋文	11/25～2/22
19	右京第759次	7ANUDC-2・UNW-2	京都市西京区大原野石見町地内	(財)京都市埋文研	1/6～4/26
20	右京第760次	7ANINC-15	長岡京市今里三丁目235-1・236-1	(財)長岡京市埋文	1/14～2/14

21	右京第761次	7ANNKY-3	長岡京市友岡二丁目23-1ほか	(財)長岡京市埋文	2/10～2/19
22	右京第762次	7ANBNI-7	向日市寺戸町西垣内15-1	(財)向日市埋文	11/26～2/28
23	右京第763次	7ANTMK-4	大山崎町下植野宮脇99	大山崎町教委	1/28～2/28
24	右京第764次	7ANGMT-3	長岡京市井ノ内南内畑11他	(財)長岡京市埋文	2/17～3/8
25	右京第765次	7ANQUD-7	長岡京市久貝二丁目216	(財)長岡京市埋文	2/10～3/18
26	右京第766次	7ANMDB-9	長岡京市神足二丁目地内	(財)長岡京市埋文	3/4～3/31
27	大山崎町遺跡確認第50次	7YYMSHC-2	大山崎町字円明寺小字東ノ口3	大山崎町教委	1/30～2/7
28	山城国府第67次	7XYS・FH16	字大山崎小字藤井畑22	大山崎町教委	3/17～3/28
29	向日市立会第02157次	7AMMATE	向日市物集女町燈籠前2-3	(財)向日市埋文	3/13

長岡京跡発掘調査抄報

宮内　第421次の調査では土坑に伴う12～13世紀の一括資料が得られたほか、宮内道路の側溝が検出された。

左京域　第473次の調査では、弥生中期に埋没した自然流路から石棒(縄文晩期)が、また、弥生前期末の方形周溝墓の周溝内から打製石剣が、それぞれ完形で出土した。また、長岡京期では、東二坊大路と二条条間大路の交差部の切り合いや、礫を伴う路盤工事の形跡が認められたこと、さらに、道路側溝から多数の文字資料(木簡・墨書土器・線刻土器など)が出土したことなどの成果があがっている。

第479次の調査では、拳大の河原石を用いた礫敷遺構が検出された。出土遺物から中世前期を下限とするが、その解釈をめぐって、治水対策や護岸施設、地盤改良の工法など議論が分かれる。

第480・481次の調査では、長岡京期の基壇構造の建物を想定できる大形掘立柱建物跡(柱穴)などが検出された。小範囲の調査ではあるが、東院とその隣接地ということもあり、その広がりを検討できる資料が得られた。

右京域　第748・757・766次は長岡京域の北西端における調査で、縄文晩期の甕棺墓、弥生中期の方形周溝墓、古墳時代中期の竪穴式住居跡、長岡京期の有庇建物を含む掘立柱建物跡・井戸・溝、中世前期の屋敷関連遺構などが広範にわたって検出された。一方、延長270mにわたって検出した一条大路南側溝に対して直行する南北小路側溝が認められず、町割り区画との関連も含め、条坊施工に対する新たな知見が得られた。

第755・762次調査区は、白鳳期創建の寺院である宝菩提院廃寺の想定寺域のほぼ中央に位置する。調査の結果、石敷や覆屋を備えた大形の竈を主体とする特殊な遺構が検出された。10世紀前半を下限とするもので、寺院にともなう「湯屋」の可能性が指摘される。中世以前の「湯屋」の構造や配置などを知る上で貴重な成果となった。

(伊賀高弘)

財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧

（平成15年４月１日現在）

理事長

上田　正昭
（京都府文化財保護審議会会長・京都大学名誉教授）

常務理事

中谷　雅治

理　事

藤井　　学
（京都府立大学名誉教授）

石野　博信
（徳島文理大学教授・香芝市二上山博物館館長）

中尾　芳治
（帝塚山学院大学文学部教授）

井上　満郎
（京都産業大学文化学部教授）

都出比呂志
（大阪大学大学院文学研究科教授）

高橋　誠一
（関西大学文学部教授）

増田富士雄
（京都大学大学院理学研究科教授）

上原　真人
（京都大学大学院文学研究科教授）

下田　元美
（京都府府民労働部文化芸術室長）

奥野　義正
（京都府教育庁指導部長）

杉原　和雄
（京都府教育庁指導部理事文化財保護課長事務取扱）

監　事

安西　信隆
（京都府出納管理局長）

池田　　博
（京都府教育庁管理部長）

事務局長		中谷　雅治
総務課	課　　長	安田　正人
	総務係長	杉江　昌乃
	主　　任	今村　正寿
	専門調査員	橋本　清一（府立山城郷土資料館へ派遣）
	主　　査	関　　浩治
	主　　事	鍋田　幸世
調　査	課　　長	久保　哲正
第１課	課長補佐	水谷　壽克
	企画係長	水谷　壽克（兼）
	主査調査員	伊賀　高弘
	資料係長	辻本　和美
	主任調査員	田中　　彰
調　査	課　　長	長谷川　達
第２課	総括調査員	小山　雅人
	課長補佐	奥村清一郎
	調査第1係長	奥村清一郎（兼）
	主任調査員	竹原　一彦　小池　寛 森島　康雄　細川　康晴
	専門調査員	岡﨑　研一
	調査員	石崎　善久　村田　和弘
	調査第2係長	伊野　近富
	主任調査員	松井　忠春　戸原　和人 田代　　弘　中川　和哉
	専門調査員	石尾　政信　黒坪　一樹
	調査員	筒井　崇史
	調査第3係長	石井　清司
	主任調査員	引原　茂治　増田　孝彦 岩松　　保
	専門調査員	竹井　治雄
	調査員	柴　　暁彦　野島　　永 高野　陽子

センターの動向(03.01～04)

1．できごと

1．15～24　埋蔵文化財発掘技術者専門研修「報告書作成課程」(於：独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所)藤井整調査員参加

17　職員研修(於：当センター)講師：小池寛主任調査員「古墳時代中期における製塩土器研究の現状と課題」

20　片山古墳群(木津町)発掘調査終了(10.28～)

21　内田山遺跡・内田山古墳群(木津町)発掘調査開始

22　長岡京連絡協議会(於：当センター)

新堂池古墳群第2次(園部町)現地説明会

23　ＯＪＴ指導者研修(於：京都市)長谷川達調査第2課長出席

24　椋ノ木遺跡第6次(精華町)関係者説明会

27～28　ＯＪＴ指導者研修(於：京都市)長谷川達調査第2課長出席

2．7　教育関係法人職員合同研修会(於：(財)京都府学校給食会)小山雅人調査第2課総括調査員、奥村清一郎調査第2課課長補佐、伊野近富調査第2係長、杉江昌乃総務係長出席

10　椋ノ木遺跡第第6次、発掘調査終了(6．5～)

13　長岡京跡右京第753次・井ノ内遺跡・上里遺跡(長岡京市)関係者説明会

魚田遺跡第6次・西村遺跡・門田遺跡(京田辺市)発掘調査終了(12．5～)

14　全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック主担者会議(於：長岡京市)小山雅人調査第2課総括調査員出席

18　芝山遺跡(城陽市)関係者説明会

19　池上遺跡第15次(八木町)関係者説明会

21　長岡京跡右京第753次・井ノ内遺跡・上里遺跡、発掘調査終了(12.11～)

井上満郎理事、平安京跡(山城高校)現地視察

22　第95回埋蔵文化財セミナー(於：長岡京市産業文化会館)(別掲)

24　人権問題特別研修(於：京都府職員研修所)水谷壽克調査第1課課長補佐出席

25　薪遺跡第4次(京田辺市)発掘調査終了(11.25～)

26　池上遺跡第15次(八木町)発掘調査終了(11．5～)

平安京跡(山城高校)(京都市)現地説明会

長岡京連絡協議会(於：当センター)

27　大淵遺跡(亀岡市)現地説明会

内田山遺跡・内田山古墳群、発掘調査終了(1.21～)

芝山遺跡、発掘調査終了(7．8～)

3．5　内里八丁遺跡第19次(八幡市)発掘調査終了(12.18～)

7　大淵遺跡、発掘調査終了(7．2～)

平安京跡(山城高校)、発掘調査終了(10.28～)

里遺跡(亀岡市)発掘調査終了(11.8～)

全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロックＯＡ委員会(於：滋賀県文化財保護協会)辻本和美資料係長出席

人権に関する職場研修(於：府乙訓総合庁舎)戸原和人主任調査員、伊賀高弘主査調査員、高野陽子調査員出席

12　人権に関する職場研修(於：府乙訓総合庁舎)長谷川達調査第２課長、奥村清一郎調査第２課課長補佐、石井清司調査第１係長、伊野近富調査第２係長出席

17　当センター公式ホームページ開設

26　長岡京連絡協議会(於：当センター)

27　第67回役員会・理事会(於：ルビノ京都堀川)川上貢副理事長、中谷雅治常務理事・事務局長、上田正昭、藤井学、中尾芳治、井上満郎、都出比呂志、高橋誠一、増田富士雄、三品廣実、太田信之、杉原和雄各理事出席

31　退職職員辞令交付(別掲)

4．1　理事、監事就任(別掲)

新規採用職員辞令交付(別掲)

昇任・異動職員辞令交付

15　芝山遺跡(城陽市)発掘調査開始

23　長岡京連絡協議会(於：当センター)

24　三角古墳群(舞鶴市)発掘調査開始

内里八丁遺跡第20次(八幡市)発掘調査開始

2．普及啓発事業

3．2　第95回埋蔵文化財セミナー(於：長岡京市産業文化会館)『恭仁宮跡・長岡京跡・平安京跡の最新調査成果から』：木村泰彦長岡京市埋蔵文化財センター主査「長岡京跡右京六条一坊十一・十二町の調査について」、村田和弘当センター調査員「平安京跡右京一条三坊九・十町の調査について」、奈良康正京都府教育庁文化財保護課技師「恭仁宮跡の調査について」

(別掲)人事異動

3．31　樋口隆康理事長、川上貢副理事長、三品廣実理事、太田信之理事、小石原範和監事退任

鈴木直人主事、藤井整調査員退職(京都府教育庁へ復職)、中村周平調査員退職

4．1　上田正昭理事長、石野博信理事、上原真人理事、下田元美理事、奥野義正理事、安西信隆監事、池田博監事就任

関浩治主査、細川康晴主任調査員採用(京都府教育庁から派遣)

受贈図書一覧(03.01～03)

(財)北海道埋蔵文化財センター

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第178集　恵庭市西島松５遺跡、同第179集　恵庭市西島松９遺跡、同第181集　八雲町落部１遺跡、同第182集　森町本内川右岸遺跡、調査年報15　平成14年度

北上市立埋蔵文化財センター

北上市埋蔵文化財調査報告第47集　黒岩宿遺跡、同第49集　立花南遺跡、同第50集　森下遺跡、同第51集　蛭川遺跡、同第52集　向遺跡、同第53集　黒岩城跡、北上市埋蔵文化財年報(2000年度)

(財)いわき市教育文化事業団

いわき市埋蔵文化財調査報告第88冊　連郷遺跡、同第90冊　栗木作遺跡、同第91冊　桜町遺跡

(財)茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第197集　下大井遺跡２、同第198集　市ノ台屋敷遺跡、同第199集　梶山向山遺跡、同第200集　御園生遺跡、同第201集　島名八幡前遺跡、同第202集　羽黒遺跡、同第203集　島名ツバタ遺跡、同第204集　中山遺跡、同第205集　岡の宮遺跡、同第206集　北田遺跡、同第207集　塙谷津遺跡、同第208集　二の沢Ａ遺跡・二の沢Ｂ遺跡(古墳群)・ニガサワ古墳群、同第209集　金田西遺跡・金田西坪Ｂ遺跡・九重東岡廃寺

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第255集　綿貫観音山古墳Ⅱ、同第284集　西善尺司遺跡、同第303集　八ッ場ダム発掘調査集成(1)、同第306集　石関西田Ⅱ遺跡

(財)千葉県文化財センター

千葉県文化財センター調査報告第418集　柏市光ヶ丘遺跡、同第419集　主要地方道成田松尾線ＸⅢ、同第420集　千葉東南部ニュータウン24、同第421集　千葉東南部ニュータウン25、同第422集　千葉市鷲谷津遺跡、同第423集　千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ＸＶ、同第424集　佐倉市井野一里塚南遺跡、同第425集　成田市十余三四本木Ⅱ遺跡、同第426集　芝山町・沖ノ台遺跡・沖ノ台Ⅱ遺跡、同第427集　芝山町・向台遺跡、同第428集　東金市前畑遺跡・羽戸遺跡、同第429集　山武町・松生町大作長遺跡・成東町駄ノ塚遺跡、同第430集　松尾町大山遺跡、同第431集　香山新田安戸台遺跡(空港No.９遺跡)・香和田戸遺跡(空港No.60遺跡)、同第432集　宮谷横穴群、同第433集　境川Ａ遺跡、同第434集　富里町・日吉倉城跡、同第435集　袖ヶ浦市台山遺跡、同第436集　木更津市中越遺跡、同第437集　茂原市川代遺跡、同第438集　市原市稲荷神社三山塚、年報No.27

(財)山武郡市文化財センター

(財)山武郡市文化財センター調査報告書第70集　小野山田遺跡群Ⅱ

(財)東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター

東京都埋蔵文化財センター調査報告第50集　多摩ニュータウン遺跡(20)、同第123集　西台後藤田遺跡第３地点、同第127集　南田中遺跡・田島遺跡・富士見台三丁目遺跡、同第130集　武蔵国分寺跡関連遺跡

(財)新宿区生涯学習財団新宿歴史博物館

北新宿二丁目遺跡Ⅰ、百人町三丁目西遺跡Ⅴ、坂町遺跡

(財)かながわ考古学財団

かながわ考古学財団調査報告59　道志導水路関連遺跡、同137　宅間谷西第２やぐら群Ⅱ、同138　覚園寺総門跡東やぐら群Ⅱ、同139　松葉ヶ谷奥やぐら、同140　山王堂東谷やぐら群Ⅱ、同154　明石谷やぐら群、同141　小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡第Ⅲ地点、同142　大北横穴墓群、同143　上ノ町遺跡石器時代の狩猟、年報９、研究紀要８　かながわの考古学

(財)横浜市ふるさと歴史財団

埋蔵文化財センター年報12、港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告28　茅ヶ崎貝塚

山梨県埋蔵文化財センター

山梨県埋蔵文化財調査センター調査報告書第194集　五反田遺跡、同第196集　下西畑遺跡・西畑遺跡・影井遺跡・保坂家屋敷墓、同第197集　久保田・道々芽木遺跡、同第198集　金山金山遺跡、同第199集　桂野遺跡(第４次調査)・原山遺跡

(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

新潟県埋蔵文化財調査報告書第117集　赤坂山中世窯跡・赤坂山Ｂ遺跡、同第118集　上浦遺跡

(財)岐阜県文化財保護センター

岐阜県文化財保護センター調査報告書第78集　金ヶ崎遺跡・青木横穴墓、同第79集　深橋前遺跡、同第80集　藤田坂遺跡、同第81集　岩井戸岩陰遺跡

(財)土岐市埋蔵文化財センター

元屋敷陶器窯跡発掘調査報告書、妻木城、織部の流通圏を探る　東日本

三重県埋蔵文化財センター

近畿自動車道尾鷲勢和線(紀勢～勢和間)埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ、一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報ⅩⅣ、宮川用水第二期地区埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ、研究紀要　第12号、平成13年度　三重県埋蔵文化財年報、三重県埋蔵文化財調査報告156　粥見井尻遺跡発掘調査報告、同186-5　宮山遺跡(第２次)・大久保城跡、同208-4　野田塚・野田遺跡、同208-5　発シＡ遺跡、同238-1　粟生城跡、同239　城堀遺跡発掘調査報告、同242　真名井神社裏包含地発掘調査報告

(財)滋賀県文化財保護協会

湖辺集落を読む、紀要　第16号

守山市立埋蔵文化財センター

守山市文化財調査報告書第45冊　塚之越遺跡第５次発掘調査報告書、同第65冊　八ノ坪遺跡発掘調査報告書、同第69冊　下長遺跡第16次・阿比留遺跡第３次発掘調査概要報告書、同第71冊　八ノ坪遺跡発掘調査報告書、中島遺跡発掘調査報告書、山田町遺跡第１次発掘調査概要報告書、下長遺跡発掘調査報告書Ⅷ、同Ⅸ、欲賀地区ほ場整備発掘調査報告書、伊勢遺跡第57次発掘調査報告書、千代北遺跡第１次発掘調査概要報告書、播磨田西遺跡第３次発掘調査報告書、守山市文化財調査報告書平成10・11年国庫補助対象遺跡発掘調査報告書、同平成12・13年国庫補助対象遺跡発掘調査報告書、守山市埋蔵文化財発掘調査　平成12年度年報、弥生のタイムカプセル－下之郷遺跡、守山の歴史を掘る３、湖南における古墳時代のはじまり

(財)大阪府文化財センター

大阪文化財論集Ⅱ、過去からのメッセージ－大阪発掘30年－、30年のあゆみ、大阪府文化財研究　第22号、年報　平成13年度、摂河泉発掘資料精選Ⅱ、(財)大阪府文化財センター調査報告書第81集　麻田藩陣屋跡、同第82集　杉中責谷遺跡、同第83集　耳原遺跡、古墳出現期の土師器と実年代、『河内名所図会』にあらわれた遺跡の研究、住居に関する総合的研究、大阪埋蔵文化財研究会(第46回)資料

島根県埋蔵文化財調査センター

かんどの流れ－総集編－

(財)広島県埋蔵文化財調査センター

広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第203集　灰塚ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(Ⅴ)、同第204集　同(Ⅵ)、同第205集　同(Ⅶ)、同第206集　三太刀遺跡(Ⅰ)、同第207集　福原城跡、同第208集　日曽木遺跡

(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

埋蔵文化財発掘調査報告書第98集　東峰遺跡第２・４地点・高見Ⅰ遺跡、同第99集　中城跡・底なし田Ⅱ遺跡・元城跡、同第100集　湯築城跡、同第101集　土居窪遺跡２次・祝谷畑中遺跡・祝谷本村遺跡２次、同第102集　幸の木遺跡、愛比売－平成13(2001)年度年報

(財)松江市教育文化振興事業団埋蔵文化財課

松江市文化財調査報告書第92集　舎人遺跡・荒隈城跡(小十太郎地区)発掘調査報告書、埋蔵文化財年報Ⅵ

(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

松山市文化財調査報告書第89集　松ヶ谷遺跡、同第90集　潮見山古墳群

福岡市埋蔵文化財センター

平成13年度　年報第21号

深川市教育委員会

深川市文化財調査報告17　納内９遺跡

上ノ国町教育委員会

史跡上之国勝山館跡ＸＸⅢ、町内遺跡発掘調査事業報告書Ⅴ

鵡川町教育委員会

米原５遺跡

弘前市教育委員会

下池神地区遺跡発掘調査報告書、弘前市内遺跡発掘調査報告書６、弘前城北の郭発掘調査概報Ⅲ、堀越城跡発掘調査報告書Ⅲ、寺沢遺跡発掘調査報告書、津軽山革秀寺発掘調査報告書、中野(2)遺跡発掘調査報告書

平賀町教育委員会

平賀町埋蔵文化財報告書第31集　太師森遺跡発掘調査報告書、同第32集　新館城遺跡発掘調査報告書

岩手県教育委員会

岩手県文化財調査報告第105集　岩手県内遺跡発掘調査報告書、同第106集　岩手の洞穴遺跡、同第108集　岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成11年度)、同第112集　同(平成12年度)、同第114集　同(平成13年度)

盛岡市教育委員会

上田蝦夷森古墳群・太田蝦夷森古墳群発掘調査

報告書、前野遺跡、史跡盛岡城跡平成13年度発掘調査概報、盛岡市内遺跡群平成13年度発掘調査概報

陸前高田市教育委員会

陸前高田市文化財調査報告書第24集　相川Ⅰ遺跡発掘調査報告書

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第242集　高田B遺跡、同第256集　若林城跡、同第260集　今市遺跡

櫛引町教育委員会

『丸岡城跡』の試掘調査報告書

郡山市教育委員会

清水内遺跡(第5次)、阿久津館跡、宮ノ脇遺跡、白旗遺跡・転沢遺跡、郡荒井猫田遺跡(Ⅱ区)、簗場遺跡・皆屋敷遺跡・町A遺跡、清水台遺跡、郡山市埋蔵文化財分布調査報告9、郡山の古墳時代

足利市教育委員会

足利市埋蔵文化財調査報告第43集　智光寺跡第2次発掘調査報告書、同第45集　宿居館跡発掘調査報告書、同第46集　平成12年度文化財保護年報

佐野市教育委員会

佐野市埋蔵文化財調査報告書第21集　屋敷東Ⅱ遺跡・屋敷東遺跡、同第23集　ゴロノミヤ遺跡、同第24集　佐野城跡(春日岡城)Ⅱ、同第25集　住宅団地内遺跡Ⅱ、同第26集　ムジナ塚遺跡

前橋市教育委員会

荻窪鰯塚遺跡・荻窪東爪遺跡、堤沼下遺跡、富田下大日Ⅰ遺跡、富田下大日Ⅱ遺跡、富田下大日Ⅳ遺跡、五代竹花遺跡・五代木福Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅰ遺跡、五代木福Ⅱ遺跡・五代深堀Ⅰ遺跡、元総社小見遺跡、総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北Ⅱ遺跡・総社甲稲荷大道西Ⅱ遺跡、五代伊勢宮Ⅱ遺跡、五代伊勢宮Ⅲ遺跡・五代深堀Ⅱ遺跡・五代中原Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅳ遺跡、平成12年度文化財調査報告書第31集、平成13年度文化財調査報告書第32集、平成13年度市内遺跡発掘調査報告書

市原市教育委員会

市原市遺跡発掘調査報告第16冊　椎津新林遺跡・稲荷台遺跡

文京区教育委員会

文京区埋蔵文化財調査報告書第26集　駒込上富士前町遺跡第Ⅲ地点

北区教育委員会

北区埋蔵文化財調査報告第30集　田端不動坂遺跡Ⅴ

武蔵野市教育委員会

武蔵野市埋蔵文化財調査報告集6

鎌倉市教育委員会

鎌倉市埋蔵文化財緊急発掘調査報告書18　平成13年度発掘調査報告、国指定史跡永福寺跡、杉本寺周辺遺跡、鎌倉の埋蔵文化財5、鎌倉大仏周辺発掘調査報告書　平成13年度、鎌倉大仏周辺の発掘調査

若草町教育委員会

若草町の遺跡と文化財

境川村教育委員会

境川村埋蔵文化財調査報告書第18輯　石橋条里(3次)・石橋遺跡

八田村教育委員会

八田村

飯田市教育委員会

番場遺跡、前の原遺跡Ⅳ、箕瀬遺跡、久保田遺跡・久保田1号古墳・えん魔大塚古墳、月の木遺跡・月の木古墳群、開善寺境内遺跡、飯田城跡、恒川遺跡群他市内遺跡平成13年度市内緊急調査概要報告書

伊那市教育委員会

高尾遺跡、伊那市内の民俗芸能(無形文化財)の記録第8集、中原・原遺跡

茅野市教育委員会

一ノ瀬・芝ノ木遺跡、下野根遺跡、大田刈遺跡

新発田市教育委員会

新発田市埋蔵文化財調査報告第23-2　坂ノ沢C遺跡Ⅱ

美濃市教育委員会

美濃市文化財調査報告第13号　寺屋敷遺跡、同第14号　林光庵遺跡、同第15号　段遺跡Ⅱ、同第16号　段遺跡C地区、同第17号　山ノ神遺跡、同第18号　御輿休遺跡、同第19号　垣内遺跡

大垣市教育委員会

大垣市埋蔵文化財調査報告書第13集　荒尾南遺跡Ⅱ、同第40集　大垣市埋蔵文化財調査概要平成13年度

清水市教育委員会

清水市内遺跡群発掘調査報告書、町屋田遺跡発掘調査報告書(平成14年度)、片瀬山古墳群調査報告書・後田遺跡発掘調査報告書、薩埵山陣屋跡現況遺構確認等分調査報告書

袋井市教育委員会

土橋遺跡Ⅴ、不入斗Ⅰ遺跡、井守塚古墳群、石原沢遺跡、袋鶴松遺跡Ⅸ、鶴田Ⅱ遺跡、掛之上遺跡Ⅵ・Ⅷ、同Ⅸ・Ⅹ、かけのうえ遺跡

新居町教育委員会

新居関所史料館年報　平成11年度、同平成12年度、同平成13年度、特別史跡新居関跡発掘調査

概報

四日市市教育委員会

四日市市遺跡調査会文化財調査報告書ⅩⅢ　北中寺遺跡１

上野市教育委員会

上野市文化財調査報告69　宮ノ森遺跡（２次）発掘調査報告、同71　西明寺遺跡発掘調査報告（７次）

草津市教育委員会

草津市文化財調査報告書第49冊　中畑遺跡発掘調査報告書Ⅱ

長浜市教育委員会

平成12年度長浜市文化財保護年報、長浜市埋蔵文化財調査資料第21集　福満寺遺跡・大戌亥遺跡発掘調査報告書、同第41集　宮司遺跡・長浜城遺跡・神照寺坊遺跡、同第43集　下水道関連１立会調査報告書、同第44集　室遺跡15次調査、同第45集　川崎遺跡32次調査、同第46集　宮司遺跡・室遺跡・鴨田遺跡発掘調査報告書、同第47集　塚町遺跡第19次調査

野洲町教育委員会

野洲町文化財資料集2001-1　平成12年度野洲町内遺跡発掘調査概要、同2001-3　平成11年度大篠原東遺跡発掘調査概要報告２、同2002-1　平成13年度野洲町内遺跡発掘調査概要

大阪市教育委員会

平成13年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書

貝塚市教育委員会

ト半斎了珍と貝塚寺内

高槻市教育委員会

高槻市文化財調査概要第29冊　闘鶏山古墳

羽曳野市教育委員会

羽曳野市埋蔵文化財調査報告書第48号　史峯ヶ塚古墳後円部発掘調査報告書

阪南市教育委員会

阪南市埋蔵文化財報告27　馬川遺跡、同29　阪南市埋蔵文化財発掘調査概要17

泉佐野市教育委員会

泉佐野市埋蔵文化財調査報告62　岡ノ崎遺跡、泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要　平成13年度

豊中市教育委員会

豊中市文化財調査報告第46集　穂積遺跡第14次・第15次発掘調査報告、同第50集　箕輪遺跡第１次発掘調査報告書、同第53集　豊中市埋蔵文化財発掘調査概要平成14年度

加西市教育委員会

加西市埋蔵文化財調査報告37　南上山遺跡、同44　小谷遺跡（第13次）

川西市教育委員会

平成13年度川西市発掘調査概要報告

中町教育委員会

中町文化財報告28　思い出遺跡群Ⅴ

大宇陀町教育委員会

ゆめのあと、大宇陀町文化財調査報告書第５集宇陀松山城（秋山城）跡、宇陀松山城（秋山城）跡１－虎口の調査－

和歌山市教育委員会

和歌山市内遺跡発掘調査概報平成12年度、和歌山市文化体育振興事業団調査報告書第24集　秋月遺跡、同第28集　太田・黒田遺跡、同第29集史跡和歌山城第23次発掘調査概報、同第31集太田・黒田遺跡第49次発掘調査概報、同第32集有功遺跡第３次発掘調査概報、和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報７

淀江町教育委員会

淀江町埋蔵文化財調査報告書第42集　麦木晩田遺跡、同第52集　淀江町内遺跡Ⅷ

北条町教育委員会

北条町埋蔵文化財報告書32　町内遺跡発掘調査報告書第12集

庄原市教育委員会

庄原市文化財調査報告書13　割谷遺跡発掘調査報告書

さぬき市教育委員会

花池尻中遺跡

土佐山田町教育委員会

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第20集須江ツカアナ古墳、同第26集　楠目城跡（山田城跡）、同第27集　入野南山ノ陰遺跡

福岡市教育委員会

福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第696集　板倉Ｃ遺跡３、同第697集　鋤崎古墳群３、同第698集　梅林遺跡、同第699集　高畑遺跡、同第700集　七隅古墳群Ｃ、同第701集　井相田Ｄ遺跡、同第702集　立花寺Ｂ遺跡２、同第703集箱崎11、同第704集　箱崎12、同第705集　箱崎13、同第706集　博多80、同第707集　博多81、同第708集　博多82、同第709集　博多83、同第710集　博多84、同第711集　博多85、同第712集　久保園遺跡２・席田青木遺跡４、同第713集　那珂32、同第714集　那珂30、同第715集那珂31、同第716集　板付周辺遺跡調査報告書第23集、同第717集　同第24集、同第718集　同第25集、同第719集　麦野Ａ遺跡、同第720集五十川遺跡、同第721集　井尻Ｂ遺跡10、同第722集　元岡・桑原遺跡群１、同第723集　田島Ａ遺跡、同第724集　原東遺跡、同第725集　有

田・小田部第37集、同第726集　西新地区元寇防塁発掘調査報告書、同第727集　下山門敷町遺跡・下山門乙女田遺跡、同第728集　コノリ遺跡、同第729集　野方平原遺跡、同第730集　鋤崎古墳、同第731集　吉武遺跡群ⅩⅣ、同第732集　大原Ｄ遺跡３、同第733集　鴻臚館跡12、福岡市埋蔵文化財年報VOL.15

豊前市教育委員会

豊前市文化財調査報告書第15集　河原田四ノ坪遺跡・川内南原遺跡、歴史と浪漫の散歩道、求菩提資料館常設展示図録、くぼて森の美術館吉田達磨展

八女市教育委員会

八女市文化財調査報告書第63集　高島遺跡（２次調査）、同第64集　前古賀・井手口遺跡、同第65集　埋蔵文化財調査報告書Ⅰ、同第66集　廣川林遺跡（３次調査）、同第67集　津江八升遺跡（１次・２次・３次調査）、同第68集　三河小学校庭遺跡（２次調査）

小郡市教育委員会

小郡市文化財調査報告書第146集　力武内畑遺跡３、同第147集　花立山古墳群１、同第152集　横隈上内畑遺跡４、同第161集　三沢ハサコの宮遺跡Ⅲ、同第162集　横隈上内畑遺跡６、同第163集　小郡川原田遺跡Ⅱ、同第164集　横隈十三塚遺跡１、同第165集　三沢古賀遺跡３、同第166集　上岩田周辺遺跡３、同第167集　小郡官衙周辺遺跡２、同第168集　小板井蓮輪遺跡、同第169集　三沢北中尾遺跡１地点、同第170集　福童山の上遺跡４

大野城市教育委員会

大野城市の文化財第34集　大野城市の遺跡⑦、大野城市文化財調査報告書第58集　塚口遺跡

宗像市教育委員会

宗像市文化財調査報告書第52集　徳重本村、同第53集　稲元黒巡、むなかたの文化財－平成12・13年度文化財調査概要

三輪町教育委員会

三輪町文化財報告書第10集　仙道古墳

大平村教育委員会

大平村文化財調査報告書第10集　穴ヶ葉山古墳、同第12集　下唐原十足遺跡

佐賀県教育庁文化課

佐賀県文化財調査報告書第150集　柚比遺跡群２

布津町教育委員会

布津町文化財調査報告書第１集　大崎鼻遺跡

熊本市教育委員会

大江遺跡群Ⅳ、つつじヶ丘横穴群、池辺寺跡Ⅳ

えびの市教育委員会

えびの市埋蔵文化財調査報告書第36集　稲荷下遺跡Ⅱ、同第37集　小岡丸地区遺跡群、同第38集　草刈田遺跡

上高津貝塚ふるさと歴史の広場

永国遺跡（第２次調査）、“おかね”はじめて物語

栃木県立なす風土記の丘資料館

年報　第10号

富士見市立水子貝塚資料館

平成13年度富士見市立資料館要覧

国立歴史民俗博物館

研究年報10

出光美術館

館報　第121号、研究紀要　第８号

調布市郷土博物館

調布市埋蔵文化財調査報告50　下石原遺跡、同51　中耕地遺跡、同52　下布田遺跡、同53　下石原遺跡、同54　小島町遺跡、同55　深大寺城山遺跡、同56　飛田給遺跡

神奈川県立歴史博物館

年報　平成13年度

上田市立博物館

上田の雛人形

氷見市立博物館

平成13年度　年報、写真にみる氷見の昔と今

三方町縄文博物館

年報　第２号

静岡市立登呂博物館

研究紀要３

斎宮歴史博物館

描き出された歌人たち－三十六歌仙－

滋賀県立陶芸の森

研究集会「近世信楽焼をめぐって」報告書

滋賀県立琵琶湖博物館

琵琶湖博物館研究調査報告第19号　琵琶湖最後の船大工　松井三四郎大いに語る

大阪府立弥生文化博物館

追想　佐原真さんのご逝去を悼む

大阪府立近つ飛鳥博物館

館報７、西域への道、紫金山古墳

茨木市立文化財資料館

平成13年度発掘調査概報

兵庫県立歴史博物館

兵庫県立歴史博物館総合調査報告書Ⅴ　船越山瑠璃寺、塵界　第13号、同第14号

広島県立歴史民俗資料館

年報　第22号、霧の子孫たち

徳島市立考古資料館
いにしえの徳島、年報　第２号、同第３号
太宰府市文化ふれあい館
太宰府市の文化財第59集　大宰府条坊跡ＸⅨ、同第60集　大宰府条坊跡20、同第61集　大宰府条坊跡21、同第62集　太宰府・佐野地区遺跡群13、同第63集　太宰府・佐野地区遺跡群14、同第64集　奥園遺跡、平成８年度　年報創刊号、平成９年度　同第２号、平成10年度　同第３号、平成11年度　同第４号、平成12年度　同第５号

東北学院大学東北文化研究所
東北文化研究所紀要　第34号、東北文化研究所要覧2002
筑波大学歴史・人類学系
歴史人類　第31号
早稲田大学教務部本庄考古資料館
下戸塚遺跡第２・３次調査報告、下野谷遺跡Ⅳ
國學院大學文学部考古学研究室
國學院大學文学部考古学実習報告第37集　物見処遺跡2002
駒澤大学考古学研究室
駒澤考古　第27号、手形山南遺跡
大正大学史学会
鴨台史学　第３号
立教大学学校・社会教育講座
Mouseion48
専修大学考古学研究室
専修大学文学部考古学研究報告第１冊　剣崎長瀞西５・27・35号墳
富山大学人文学部考古学研究室
阿尾島田Ａ１号墳
金沢大学文学部考古学研究室
金沢大学考古学紀要　第26号
金沢学院大学
紀要　文学・美術編第１号、同情報科学・自然科学編第１号
愛知学院大学文学会
文学部紀要　第32号
名古屋大学年代測定総合研究センター
名古屋大学加速器質量分析計業績報告書（ＸⅣ）
近畿大学文化会考古学研究会
七古歩　第24号
関西学院大学文学部史学科
関西学院史学　第30号
奈良大学図書館
奈良大学紀要　第31号
帝塚山大学
帝塚山大学大学院人文科学研究科紀要　第４号

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
紀要　2001
鹿児島大学埋蔵文化財調査室
年報14、同15、同16

宮城県多賀城跡調査研究所
年報2002　多賀城跡第73次調査、多賀城跡関連遺跡発掘調査報告書第28冊　亀岡遺跡Ⅰ
さいたま市遺跡調査会
さいたま市遺跡調査会報告書第１集　中原前遺跡（第４次）・山崎貝塚（第６次）、同第２集　日向遺跡、同第３集　水深北遺跡（第６次調査）・水深西遺跡（第３次調査）・水深遺跡（第６・７次調査）、同第５集　大間木内谷北遺跡（第３次・第４次）、同第６集　大谷口向原遺跡（第３次）・大谷口向原東遺跡・大谷口向原遺跡（第２次）、同第９集　側ヶ谷戸貝塚（第４次調査）
朝日新聞社
週刊朝日百科38日本の歴史　倭国誕生と大王の時代
朝鮮学会
朝鮮学報　第185輯
国立国会図書館
日本全国書誌　通号2417号
葛飾区遺跡調査会
平成13年度葛飾区埋蔵文化財調査年報、葛飾区遺跡調査会調査報告第51集　前津遺跡Ⅲ、同第52集　上千葉遺跡Ⅲ、同第53集　本郷遺跡Ⅷ
落川・一の宮遺跡（日野３・２・７号線）調査会
落川・一の宮遺跡Ⅲ
日野新町一丁目住宅遺跡調査会
姥久保遺跡Ⅳ
（有）朋文出版
日本史学文献目録　2000（平成12）年度
玉川文化財研究所
沼目・坂戸遺跡第Ⅱ地点、上行寺東やぐら群遺跡、下田西遺跡
全国天領ゼミナール事務局
第17回全国天領ゼミナール記録集
新津市遺跡調査室
寺道上遺跡発掘調査報告書、中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ、沖ノ羽遺跡発掘調査報告書、無頭遺跡発掘調査報告書
浜松市埋蔵文化財調査事務所
尾高山遺跡、御殿山遺跡３次
（財）古代學協會
古代文化　第55巻第１～３号
妙見山麓遺跡調査会
宅原遺跡

六甲山麓遺跡調査会
有岡城跡発掘調査報告書Ⅹ
独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所
奈良文化財研究所史料第58冊　山内清男考古資料13、奈良文化財研究所学報第65冊　文化財論叢Ⅲ、古代官衙・集落と墨書土器
奈良県立橿原考古学研究所
奈良県遺跡調査概報1999年度、奈良県文化財調査報告書第87集　地光寺、同第88集　水木古墳発掘調査報告書、同第89集　箸墓古墳周辺の調査、奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第66冊　野山遺跡群Ⅲ、大和の考古学100年、三宅町文化財調査報告書第２集　東但馬遺跡
(財)桜井市文化財協会
磐余遺跡群発掘調査概報Ⅰ、桜井市立埋蔵文化財センター発掘調査報告書第23集

(財)京都市埋蔵文化財研究所
平成11年度京都市埋蔵文化財調査概要、京都市埋蔵文化財研究所調査報告第21冊　平安京右京三条二坊十五・十六町、京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2001-1　仁和寺院家跡(花園宮ノ上町遺跡)、同2001-2　平安京右京三条一坊十・十五町跡
(財)向日市埋蔵文化財センター
向日市埋蔵文化財調査報告書第57集、同第58集
(財)長岡京市埋蔵文化財センター
長岡京市埋蔵文化財調査報告書　第27集、同第30集
京都府教育委員会
京都の文化財(第20集)
京都市文化市民局
京都市の文化財(第20集)、京都市文化財ブックス第17集　京の礎
加悦町教育委員会
弥生王墓の誕生－弥生社会の到達点－
宮津市教育委員会
宮津市史　通史編上巻
美山町教育委員会
防災施設事業報告書
綾部市資料館
綾部市文化財調査報告書第28集、同第30集、同第31集、同第32集、あやべ歴史のみち、館報第５号、同第６号
園部文化博物館
園部・古墳周遊、おもちゃ箱、生身天満宮宝物展、館報　第３号
日吉町郷土資料館
田原のカッコスリ

亀岡市文化資料館
みんなでしらべた亀岡の生きものたち、職人の民俗誌２～丹波の下駄職人～
大山崎町歴史資料館
山崎合戦－秀吉、光秀と大山崎－、館報　第９号
城陽市歴史民俗資料館
江戸のいろどり～城陽の近世絵画～
京都橘女子大学
研究紀要　第29号
佛教大学総合研究所
持続可能な社会と共生思想に関する予備的研究、法然浄土教の総合的研究
佛教大学
文学部論集　第87号
丹波史談会
丹波　第４号
向日市文化財調査事務所
向日市埋蔵文化財調査報告書第54集　長岡京跡ほか

篠原慎二
奥津城研究　第２号
鈴木裕明
橿原考古学研究所公開講演会　テーマ「日中の考古学」
中司照世
土筆７
森島康雄
出土銭貨　第18号
山本祐作
東播磨　第９号

編集後記

本年３月に、当センターの公式ホームページが開設されました。ＵＲＬは、http://www.kyotofu-maibun.or.jpです。

立ち上げたばかりで、内容もまだまだ不十分ですが、速報性とわかりやすさをモットーに、最新の発掘調査の成果や当センターの催し物の案内など、お知らせしていきたいと思いますので、是非一度お立ち寄り下さい。

今年度も埋文情報誌は、年４号の刊行を予定しております。あわせてよろしくお願いします。

（編集担当＝辻本和美）

京都府埋蔵文化財情報 第88号

平成15年６月26日

発行　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒617-0002　向日市寺戸町南垣内40番の３
Tel (075)933-3877(代)　Fax (075)922-1189

印刷　河北印刷株式会社

〒601-8461　京都市南区唐橋門脇町28
Tel (075)691-5121　Fax (075)671-8236